

2026 SYLLABUS

# 教職課程

北海道情報大学

## 【 目次 】

教育心理学 .....	3
教職概論 .....	6
教育原理 .....	9
教育制度論 .....	12
特別支援教育論 .....	15
教育課程論 .....	19
道德教育の理論と実践 .....	22
教育方法論と総合的な学習の時間の指導法 .....	25
ICT 活用の理論と実践 .....	28
特別活動論 .....	30
生徒指導 .....	33
学校教育相談 .....	36
進路指導 .....	39
教育実習Ⅰ .....	41
教育実習Ⅱ .....	44
教育実習Ⅲ .....	47
教職実践演習（中・高） .....	50
情報科教育法Ⅰ .....	53
情報科教育法Ⅱ .....	56
商業科教育法Ⅰ .....	59
商業科教育法Ⅱ .....	62
数学科教育法Ⅰ .....	65
数学科教育法Ⅱ .....	67
数学科教育法Ⅲ .....	70
数学科教育法Ⅳ .....	73

# 教育心理学 Educational Psychology

担当教員	五浦 哲也(332 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CTP172
開講学科	種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科	必修		2 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>					
先端経営学科	必修		2 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>					
情報メディア学科	必修		2 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>					
<b>授業概要</b>					
教育心理学に関する歴史的な変遷、児童・生徒の心身の発達過程やパーソナリティに関する学修を踏まえた児童・生徒を理解。さらに、学習理論や学習方法、教育評価を主体的に学修することで、教育現場に教育心理学的な視点を取り入れることができる能力を身に付ける。					
<b>授業における学修の到達目標</b>					
教育心理学的側面から幼児・児童・生徒の発達や理論の理解、発達を踏まえた学習過程や学習方法、評価における基礎的・基本的かつ実践的な知識・理解を身に付ける。					
<b>授業計画</b>					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	教科書から教育心理学への理解を深める			2
	授業	学校と教育心理学（教育心理学の領域、課題、役割、方法） 講義におけるグループ学習の仕方について			
	事後学修	予習の観点の復習 講義内容に基づき課題に取り組む 配布資料の振り返り			2
2	事前学修	第 2 講の講義の予習を行う			2
	授業	第 2 回：発達の理論（発達の概念、発達段階、発達の諸理論）※児童を含む グループワークとグループディスカッション			
	事後学修	講義内容に基づき課題に取り組む 配布資料の振り返り			2
3	事前学修	第 3 講の講義の予習を行う			2
	授業	第 3 回：乳幼児期の発達（身体、運動、認知、社会性の発達） グループワークとグループディスカッション			
	事後学修	教科書内容に基づき課題に取り組む 配布資料の振り返り			2
4	事前学修	第 4 講の講義の予習を配布したプリントで行う			2
	授業	第 4 回：青年期の発達（青年期の意義、心理、行動） グループワークとグループディスカッション			
	事後学修	グループワークとグループディスカッションでの学びを教科書の内容と関連づけて振り返る 配布資料の振り返り			2
5	事前学修	第 5 講の講義の予習を配布したプリントで行う			2
	授業	第 5 回：学習の理論（学習の概念、条件付け、記憶） グループワークとグループディスカッション			

	事後学修	グループワークとグループディスカッションでの学びを教科書の内容と関連づけて振り返る 配布資料の振り返り	2
6	事前学修	第6講の講義の予習を配布したプリントで行う	2
	授業	第6回：効果的な学習（動機づけ、学習指導法） グループワークとグループディスカッション	
	事後学修	グループワークとグループディスカッションでの学びを教科書の内容と関連づけて振り返る 配布資料の振り返り	2
7	事前学修	第7講の講義の予習を配布したプリントで行う	2
	授業	第7回：パーソナリティの理解（パーソナリティの形成、理論、理解） グループワークとグループディスカッション	
	事後学修	グループワークとグループディスカッションでの学びを教科書の内容と関連づけて振り返る 配布資料の振り返り	2
8	事前学修	第8講の講義の予習を行う	2
	授業	第8回：知能と学力の理解（知能、知能測定の歴史、学力、知能と学力） グループワークとグループディスカッション	
	事後学修	講義内容に基づき課題に取り組む 配布資料の振り返り	2
9	事前学修	第9講の講義の予習を行う	2
	授業	第9回：教育評価（方法、統計の基礎）	
	事後学修	講義内容に基づき課題に取り組む 配布資料の振り返り	2
10	事前学修	第10講の講義の予習を行う	2
	授業	第10回：不適応行動の理解（欲求と欲求不満、適応機制、不適切行動） グループワークとグループディスカッション	
	事後学修	講義内容に基づき課題に取り組む 配布資料の振り返り	2
11	事前学修	第11講の講義の予習をノートに行う	2
	授業	第11回：学校と教育相談（教育相談の考え方、不登校と教育相談） グループワークとグループディスカッション	
	事後学修	講義内容に基づき課題に取り組む 配布資料の振り返り	2
12	事前学修	これまでの講義を配布資料で振り返る	2
	授業	第12回：第11回：学校と教育相談の続き	
	事後学修	講義内容に基づき課題に取り組む 配布資料の振り返り	2
13	事前学修	特別支援教育論の講義を振り返る	2
	授業	第13回：特別な支援を必要としている児童・生徒の理解（LD、ADHDへの支援） 演習	
	事後学修	講義内容に基づき課題に取り組む 配布資料の振り返り	2
14	事前学修	特別支援教育論の講義を振り返る	2
	授業	第14回：特別な支援を必要としている児童・生徒の理解（自閉スペクトラム症への支援） 演習	

	事後学修	講義内容に基づき課題に取り組む 配布資料の振り返り	2
15	事前学修	14回の講義の振り返り	2
	授業	第15回：教育心理学の振り返り	
	事後学修	全講義のノート整理 配布資料の振り返り	2
<b>成績評価の方法およびその基準</b>			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■ 定期試験（ 50 %） ■ 小テスト（ 20 %） ■ レポート（ 30 %） ※講義中や講義後の課題			
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</b>			
理解度をみるために4回程度、課題をノートで提出してもらいます。ノートの内容に対し個別にフィードバックします。			
<b>教科書</b>	書名：「教職をめざす人のための教育心理学」、著者名：福村出版, 出版社：978-4-571-20071-7, 備考：		
<b>参考書・Web サイト</b>	なし		
<b>単位修得が望ましい科目</b>	特になし		
<b>備考</b>	授業計画で教科書に記載されていない内容は、資料を配布して講義を行います。		
<b>担当教員の実務経験</b>	1985年から京都市、北海道で31年間、公立小中学校教員の勤務経験がある。教員時代は、教育心理学と教育実践をいかに結びつけていくことができるか考え取り組んできた。この経験を活かし、学生が教育心理学に関わる知識を習得し、理解を深めていくとともに、教育現場における関連を考えていくことができる教育を実施する。		

# 教職概論 Outline of the Educational Profession

担当教員	渡邊 仁(115 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	CTP170	
開講学科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科		必修		1 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
先端経営学科		必修		1 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
情報メディア学科		必修		1 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
<b>授業概要</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の仕事内容</li> <li>・教師の役割</li> <li>・教師としての進路選択</li> </ul> <p>自分が受けた教育が全ての教育ではない。また、自分が出会った教師が全ての教師ではない。そのため、多角的に自身の教育観や教師像を捉え、教師の仕事内容や教師の役割に対する理解を深めることで、教師としての進路選択を考える機会とする。さらに、教師として必要な資質能力を考えることで、教師としての職に対する自分の意欲や適正を考えるきっかけとする。</p> <p>また、授業の一部において、本学が開発した LMS (POLITE) を利用して行う。</p>						
<b>授業における学修の到達目標</b>						
現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教師の役割・資質能力・職務内容等を深く理解し、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。						
<b>授業計画</b>						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	「良い教師」とはどういう教師のことかについて事前学習してください。				2.0
	授業	教師像・教育観 グループディスカッション・演習課題				
	事後学修	事前学習で挙げた教師が良い教師と考える「理由」について事後学習してください。				2.0
2	事前学修	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の「大分類の項目」について事前学習してください。				2.0
	授業	生徒指導上の問題 グループディスカッション・演習課題				
	事後学修	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果にある「高等学校中途退学等の事由」について事後学習してください。				2.0
3	事前学修	「主体的・対話的で深い学び」とはどういう学びなのかについて事前学習してください。				2.0
	授業	学習指導 グループディスカッション・演習課題				
	事後学修	生徒が「主体的・対話的で深い学び」となる授業はどういう授業なのかについて事後学習してください。				2.0
4	事前学修	「学級経営」の定義について事前学習してください。				2.0
	授業	学級経営 グループディスカッション・演習課題				
	事後学修	「学級の荒れ」の要因について、論文等で調べ、事後学習してください。				2.0

5	事前学修	生徒指導提要（改訂版）（令和4年12月公表）が定義する「生徒指導」について事前学習してください。	2.0
	授業	生徒指導 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	生徒指導提要（改訂版）（令和4年12月公表）にある生徒指導の「2軸3類4層構造」について事後学習してください。	2.0
6	事前学修	「教育相談」の定義について事前学習してください。	2.0
	授業	教育相談 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	生徒指導提要（改訂版）（令和4年12月公表）にある「教育相談の基本的な考え方」について事後学習してください。	2.0
7	事前学修	「進路指導」の定義について事前学習してください。	2.0
	授業	進路指導 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	中央教育審議会（2011）が定義する「キャリア教育」について事後学習してください。	2.0
8	事前学修	教師にとって「普遍的に必要とされる資質能力」について事前学習してください	2.0
	授業	教師の資質能力 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	これからの時代において、教師にとって「新たに必要とされる資質能力」について事後学習してください。	2.0
9	事前学修	高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）にある「総合的な探究の時間の目標」について事前学習してください。	2.0
	授業	総合的な探究の時間 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「総合的な探究の時間の例」について事後学習してください。	2.0
10	事前学修	「特別支援教育の理念」について事前学習してください。	2.0
	授業	特別支援教育 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「インクルーシブ教育」について事後学習してください。	2.0
11	事前学修	中学校学習指導要領（平成29年3月告示）にある「特別活動の目標」について事前学習してください。	2.0
	授業	特別活動 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「特別活動の例」について事後学習してください。	2.0
12	事前学修	学校教育法にある「高等学校の教職員（第60条）」について事前学習してください。	2.0
	授業	チーム学校運営 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「スクールカウンセラーの業務内容」と「スクールソーシャルワーカーの業務内容」について事後学習してください。	2.0
13	事前学修	自分が居住する、もしくは応募希望の都道府県の「教員採用試験の試験内容」について事前学習してください。	2.0
	授業	教員採用試験 グループディスカッション・演習課題	

	事後学修	「教員採用試験の対策方法」について事後学習してください。	2.0
	事前学修	教育基本法にある「教員の職務の重要性（第9条第1項）」と「その身分（第9条第2項）」について事前学習してください。	2.0
14	授業	教師の地位・身分・待遇・研修 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	教員が「身分を尊重されている理由」について事後学習してください。	2.0
	事前学修	自分が考える「理想の教師」について事前学習してください。	2.0
15	授業	理想の教師像 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「理想の教師」になるために何が必要かについて事後学習してください。	2.0

### 成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

試験：% 小テスト：% レポート課題：50% 演習課題：50% その他 []

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポート課題・演習課題・質問について、次回の授業冒頭でその内容についてコメントする。

<b>教科書</b>	
<b>参考書・Web サイト</b>	書名：教職入門—教師への道 著者名：藤本典裕他 出版社：図書文化 書名：中学校学習指導要領（平成29年3月告示） 著者名：文部科学省 出版社：東山書房 書名：高等学校学習指導要領（平成30年3月告示） 著者名：文部科学省 出版社：東山書房
<b>単位修得が望ましい科目</b>	特になし
<b>備考</b>	授業では資料を配布して行う。
<b>担当教員の実務経験</b>	定時制高校での勤務経験における、不登校・暴力行為・自傷行為・虐待事案・ネグレクト等の様々な問題への対応と、学校適応に関する研究を通して、理論的・実践的な授業になるよう努めている。

# 教育原理 Principles of Education

担当教員	渡邊 仁(115 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	CTP171	
開講学科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科		必修		1 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
先端経営学科		必修		1 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
情報メディア学科		必修		1 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
<b>授業概要</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の基本的概念</li> <li>・教育の歴史・思想</li> <li>・生徒・教師・家庭・学校の相互関係</li> </ul> <p>自分が受けた教育が全ての教育ではない。また、自分が経験した教育が全ての教育ではない。そのため、教育の基本的概念・歴史・思想の理解を通して、多角的な視点で教育を捉え、教育の理念を考える機会とする。さらに、生徒・教師・家庭・学校の相互関係を考えるきっかけを作る。</p> <p>また、授業の一部において、本学が開発した LMS (POLITE) を利用して行う。</p>						
<b>授業における学修の到達目標</b>						
教育の基本的概念・歴史・思想について理解を深めることで、教育を多角的な視点で捉え、教育の理念を説明できる。また、生徒・教師・家庭・学校の相互関係を理解する。						
<b>授業計画</b>						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	「教育とは何か」について事前学習をしてください。				2.0
	授業	教育と価値観 グループディスカッション・演習課題				
	事後学修	「自分と他人の教育観の違い」について事後学習をしてください。				2.0
2	事前学修	「性善説」「性悪説」について事前学習をしてください。				2.0
	授業	性善説と性悪説 グループディスカッション・演習課題				
	事後学修	「性善説の例」「性悪説の例」について事後学習をしてください。				2.0
3	事前学修	「校則」について事前学習してください。				2.0
	授業	ディスカッション（校則について） グループディスカッション・演習課題				
	事後学修	生徒が主体となって「校則を改正した事例」について事後学習してください。				2.0
4	事前学修	日本の「教育の歴史」について事前学習してください。				2.0
	授業	教育の歴史と目的 グループディスカッション・演習課題				
	事後学修	外国の「教育の歴史」について事後学習してください。				2.0
5	事前学修	「教育の目的」について事前学習してください。				2.0
	授業	教育の目的 グループディスカッション・演習課題				

	事後学修	自分が考える教育の目的を生徒が達成するための「教育の方法」について事後学習してください。	2.0
6	事前学修	「詰め込み教育・ゆとり教育・脱ゆとり教育」について事前学習してください。	2.0
	授業	教育の方法 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「ゆとり教育の本来の目的」について事後学習してください。	2.0
7	事前学修	「PBL（課題解決型学習）」について事前学習してください。	2.0
	授業	教育の方法（PBL） グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「PBL（課題解決型学習）における利点と懸念事項」について事後学習してください。	2.0
8	事前学修	「自由進度学習」について事前学習してください。	2.0
	授業	ディスカッション（自由進度学習と一斉授業） グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「自由進度学習における利点と懸念事項」について事前学習してください。	2.0
9	事前学修	「生徒にとって良い教育の方法」について事前学習してください。	2.0
	授業	研究協議（理想的な教育の方法） グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「他人が考える理想的な教育の方法における利点と懸念事項」について事後学習してください。	2.0
10	事前学修	「理想的な教育の方法」について事前学習してください。	2.0
	授業	理想的な教育の方法 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「自分が考える理想的な教育の方法における利点と懸念事項」について事後学習してください。	2.0
11	事前学修	「社会階層」について事前学習してください。	2.0
	授業	日本の社会構造 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「貧困の連鎖」について事後学習してください。	2.0
12	事前学修	「夜間中学校」について事前学習してください。	2.0
	授業	社会構造における教育の役割 1 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「社会構造における夜間中学校の位置づけ」について事前学習してください。	2.0
13	事前学修	「夜間中学校の存在意義」について事前学習してください。	2.0
	授業	社会構造における教育の役割 2 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「幸福」について事後学習してください。	2.0
14	事前学修	「自分が考える教育の役割」について事前学習してください。	2.0
	授業	研究協議（社会構造における教育の役割） グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「他人が考える教育の役割」について事後学習してください。	2.0
15	事前学修	「教育の理念」について事前学習してください。	2.0
	授業	教育の理念 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	教育原理を受講した上で、「教職に対する意欲や適性」について事後学習してください。	2.0
<b>成績評価の方法およびその基準</b>			

<p>次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。</p> <p><input type="checkbox"/>試験：% <input type="checkbox"/>小テスト：% <input checked="" type="checkbox"/>レポート：50% <input checked="" type="checkbox"/>演習課題：50% <input type="checkbox"/>その他 []</p>	
<p><b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b></p>	
<p>レポート課題・演習課題・質問について、次回の授業冒頭でその内容についてコメントする。</p>	
<p><b>教科書</b></p>	
<p><b>参考書・Web サイト</b></p>	<p>書名：新・教職のための教育原理 著者名：内海崎貴子 出版社：八千代出版</p> <p>書名：中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示） 著者名：文部科学省 出版社：東山書房</p> <p>書名：高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示） 著者名：文部科学省 出版社：東山書房</p>
<p><b>単位修得が望ましい科目</b></p>	<p>特になし</p>
<p><b>備考</b></p>	<p>講義は資料を配布して行う。</p>
<p><b>担当教員の実務経験</b></p>	<p>定時制高校での勤務経験における、不登校・暴力行為・自傷行為・虐待事案・ネグレクト等の様々な問題への対応と、学校適応に関する研究を通して、理論的・実践的な授業になるよう努めている。</p>

# 教育制度論 Study of Educational Systems

担当教員	河合 宣孝(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	CTP273	
開講学科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科		選択必修		2 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
先端経営学科		選択必修		2 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
情報メディア学科		選択必修		2 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
<b>授業概要</b>						
<p>この授業では、第一に、教育制度のしくみ等について教育基本法（現行法）を手がかりとして、制度の目的および中心理念である生涯にわたる学びと教育の機会均等について学び、その展開のありかたに深く関わる地方教育行政のしくみと教職員の制度について学びます。</p> <p>第二に、就学前教育、後期中等教育、高等教育に関する制度とそれらの領域における教育の実現に関わる政策と制度について学びます。</p> <p>第三に、制度の具体的展開である学校の経営について、学校・学級の運営やそれらの中心となる教育課程の経営について学びます。</p> <p>教育基本法や学校教育法をはじめとする関係法令や制度・施策が実際にどのように学校で運用され、いかされているのかという視点で、関係法令や制度・施策と教育の現場をつなぐことを考えながら学習を進めます。授業においては、学生による教科書の輪読を一つの柱にしており、プレゼンテーションやグループワーク、ディスカッションなどを実施します。</p>						
<b>授業における学修の到達目標</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育基本法の理念がどのようにしくみや法律で実現され制度が運用されているかについて理解し、説明することができる。</li> <li>2. 教育制度を支える様々な施策を実施する教育行政のしくみと実際について理解し、説明することができる。</li> <li>3. 学校組織の実際、学校と地域の連携及び学校安全への対応に関する基礎的知識を身につける。</li> <li>4. 「いじめ」や「不登校」をはじめとする学校・子どもをめぐる今日的課題について考察し、その解決方策について自分の考えを述べるすることができる。</li> </ol>						
<b>授業計画</b>						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の 4 ページから 9 ページを読み概要を掴み、疑問点等をまとめる。教科書巻末の教育基本法(現行法)に目を通す。。				2.0
	授業	ガイダンス、教育制度を学ぶことの意義				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2.0
2	事前学修	教科書の第 1 章を読み概要を掴み、疑問点等をまとめる。				2.0
	授業	教育制度の目的				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2.0
3	事前学修	教科書の第 2 章を読み概要を掴み、疑問点等をまとめる。				2.0
	授業	生涯にわたる学び				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2.0
4	事前学修	教科書の第 3 章を読み概要を掴み、疑問点等をまとめる。				2.0

	授業	教育の機会均等	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
5	事前学修	教科書の第4章を読み概要を掴み、疑問点等をまとめる。「北海道教育行政執行方針」および「北海道の教育施策」に目を通す。	2.0
	授業	地方教育行政	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
6	事前学修	教科書の第5章を読み概要を掴み、疑問点等をまとめる。	2.0
	授業	教職員	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
7	事前学修	教科書の第6章を読み概要を掴み、疑問点等をまとめる。	2.0
	授業	就学前教育、第1講～第7講のまとめ	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
8	事前学修	教科書の第7章を読み概要を掴み、疑問点等をまとめる。	2.0
	授業	後期中等教育・高等教育	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
9	事前学修	教科書の第8章を読み概要を掴み、疑問点等をまとめる。「第3期教育振興基本計画」に目を通す。	2.0
	授業	教育政策の計画化	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
10	事前学修	教科書の第9章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	学校の経営	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
11	事前学修	教科書の第10章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	学級の経営	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
12	事前学修	教科書の第11章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	教育課程の経営	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
13	事前学修	事前配布プリントを読み、概要を掴み、疑問点等をまとめる。	2.0
	授業	学校運営に関する法規：学校教育法、校務分掌の実際、チーム学校等	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
14	事前学修	事前配布プリントを読み概要を掴み、疑問点等をまとめる。	2.0

	授業	児童生徒に関する法規：いじめ防止対策推進法、教育機会確保法、障害者差別解消法等	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
15	事前学修	事前配布プリントを読み、概要を掴み、疑問点等をまとめる。	2.0
	授業	地方教育行政の実際と今日的課題：公立高等学校配置計画等、第8講～15講のまとめ	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
<b>成績評価の方法およびその基準</b>			
<p>次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。</p> <p><input type="checkbox"/>定期試験 <input type="checkbox"/>小テスト（ %） <input checked="" type="checkbox"/>レポート（30%） <input checked="" type="checkbox"/>演習課題（30%） <input checked="" type="checkbox"/>履修状況（グループワーク取り組み、発表などの授業参加状況）（40%） <input checked="" type="checkbox"/>その他 [出席状況は70%以上すること]</p>			
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</b>			
<p>期限までに提出し、採点や添削などのKR情報を入れて返却する。</p> <p>課題のダウンロードやアップロードはPOLITEを利用する。</p>			
<b>教科書</b>	書名：新・教育の制度と経営 [四訂版], 著者名：本図愛実・末富 芳, 出版社：学事出版株式会社, 備考：		
<b>参考書・Web サイト</b>	<p>古田 薫・山下晃一（2020）「法規で学ぶ教育制度」ミネルヴァ書房</p> <p>青木栄一（2019）「教育制度を支える教育行政」ミネルヴァ書房</p> <p>・北海道教育委員会ホームページ「北海道教育行政執行方針」  <a href="https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ksk/156257.html">https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ksk/156257.html</a></p> <p>・文部科学省ホームページ「第4期教育振興基本計画リーフレット」  <a href="https://www.mext.go.jp/content/20230928-mxt_soseisk02-100000597_07.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20230928-mxt_soseisk02-100000597_07.pdf</a></p> <p>・北海道教育委員会ホームページ「公立高等学校配置計画」</p>		
<b>単位修得が望ましい科目</b>	「教育課程論」「教職概論」「教育原理」		
<b>備考</b>	教育職員免許法に基づく中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」における「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に対応する。		
<b>担当教員の実務経験</b>	1986年から2021年まで34年間北海道立高校で教諭・教頭・校長の経験があり、高校現場の実態を踏まえた指導方法や技術を通して、教師を目指す学生たちの教職の基盤づくりに資するような授業実践に努めている。		

# 特別支援教育論 Study of Special Needs Education

担当教員	五浦 哲也(332 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CTP195
開講学科	種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科	必修		1・2 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>					
先端経営学科	必修		1・2 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>					
情報メディア学科	必修		1・2 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>					
<b>授業概要</b>					
<p>インクルーシブ教育の実現に向け、特別支援教育に関する基礎的・基本的な知識を学修し、障害種ごとの発達・心理・認知における特性や生活・学習における困難を理解し、支援方法や実施上の課題に主体的に考え、判断し、表現する取組を通して教育実践力を育成する。講義内容に関わるグループワークやディスカッションを通して学んだ内容を深めていく。</p>					
<b>授業における学修の到達目標</b>					
<p>1. 特別支援教育(意義・教育課程・法律・制度・対象となる障害・支援の方法)について理解する。                  2. 特別な教育的ニーズのある幼児・児童・生徒の発達面・心理面の特性や学習上・生活上の困難と対応について理解する。</p>					
<b>授業計画</b>					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスに従い、教科書通読			2
	授業	特別支援教育の理念と制度（制度の理念、母国語や貧困の問題等の教育的ニーズ） グループディスカッション			
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ			2
2	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り			2
	授業	小・中学校における特別支援教育の仕組み（小・中学校における実態、支援体制、個別の教育支援計画及び指導計画） グループディスカッション			
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ			2
3	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り			2
	授業	特別支援学級や通級による指導の仕組みとその実際（特別支援学級と通級による指導の実際、障害種、教育課程） グループディスカッション			
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ			2
4	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り			2
	授業	特別支援学校における教育の仕組みとその実際（障害種、特別支援学校、センター的役割、教育課程）			

		グループディスカッション	
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ	2
5	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り	2
	授業	就学までの支援の仕組みとその実態（障害のある幼児期の心身。心理的特性、早期発見・早期支援、就学に向けての支援） グループディスカッション	
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ	2
6	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り	2
	授業	注意欠陥多動性障害の理解と支援（定義、変遷、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携） グループディスカッション	
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ	2
7	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り	2
	授業	学習障害の理解と支援（医学的定義、教育的定義、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携） グループディスカッション	
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ	2
8	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り	2
	授業	自閉症の理解と支援（定義、変遷と診断基準、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携） グループディスカッション	
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ	2
9	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り	2
	授業	情緒障害の理解と支援（定義、選択性場面緘黙、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携） グループディスカッション	
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ	2
10	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り	2
	授業	言語障害の理解と支援（構音障害、吃音、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携） グループディスカッション	
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ	2

11	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り	2
	授業	視覚障害の理解と支援（定義、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携） グループディスカッション	
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ	2
12	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り	2
	授業	聴覚障害の理解と支援（定義、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携） グループディスカッション	
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ	2
13	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り	2
	授業	肢体不自由の理解と支援（定義、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携） グループディスカッション	
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ	2
14	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り	2
	授業	病弱・身体虚弱の理解と支援（定義、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携） グループディスカッション	
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ	2
15	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り	2
	授業	知的障害の理解と支援（用語と定義、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携） グループディスカッション	
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ	2

### 成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■ 定期試験（50%） ■ 小テスト（30%） ■ レポート（20%） ※講義後の課題

### 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回、課題を提出し、評価とコメントを入れて返却します。

<b>教科書</b>	書名：インクルーシブ教育時代の教員をめざすための特別支援教育入門, 著者名：大塚 玲, 出版社：明文書林, 備考：2019年2月27日第2版第1刷発行
<b>参考書・Webサイト</b>	なし
<b>単位修得が望ましい科目</b>	なし
<b>備考</b>	なし
<b>担当教員の実務経験</b>	1985年から京都市、北海道で公立小中学校教員の31年間勤務経験があり、特別支援学級、特別

	<p>支援教育コーディネーター、市町の就学指導委員としての経験もある。これらの経験を生かし、特別支援教育論に関する法令や理論的な知識・理解を伝え、教育活動全体においてどのように活かしていくことができるかを考えることができる教育を実施していく。</p>
--	---

# 教育課程論 School Curriculum Studies

担当教員	河合 宣孝(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	CTP275	
開講学科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科		必修		2 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
先端経営学科		必修		2 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
情報メディア学科		必修		2 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
<b>授業概要</b>						
<p>テーマ：カリキュラム、学習指導要領の変遷、新しい学習指導要領の理念と内容について学ぶ</p> <p>わが国の教育課程は、時代や社会の変化に対応すべく、様々な変化を遂げてきた。本授業では、教育課程やカリキュラムに関する諸理論を概観するとともに、わが国の教育課程の基準としての学習指導要領の基本的な性格やその変遷、さらには学習指導要領の変遷や新しい学習指導要領の理念や改訂内容を踏まえ、今後の新しい学校教育の展開とその課題を考察する。授業においては、学生による教科書の輪読を一つの柱にしており、プレゼンテーションやグループワーク、ディスカッションなどを実施する。</p>						
<b>授業における学修の到達目標</b>						
<p>①教育課程に関する基本事項やカリキュラム研究成果（理論）の学びを通して、教育課程・カリキュラムに関する知識を理解し、説明することができる。</p> <p>②学習指導要領の変遷とその主な特徴を把握し、わが国の教育課程行政の仕組みを理解し、説明することができる。</p> <p>③新しい学習指導要領の理念や改訂内容を把握し、これから学校に求められるカリキュラム・マネジメントについて論考し、自分の考えを述べるができる。</p>						
<b>授業計画</b>						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	教科書の第 1 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。				2.0
	授業	ガイダンス 教育課程の意義 教育課程の実際				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2.0
2	事前学修	教科書の第 2 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。				2.0
	授業	教育課程編成の思想と構造 各自が学んだ教育課程について				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2.0
3	事前学修	教科書の第 3 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。				2.0
	授業	近代・現代日本の教育課程の歩み				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2.0
4	事前学修	教科書の第 4 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。				2.0
	授業	教育課程の編成と諸要因				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2.0

5	事前学修	教科書の第 5 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	小学校学習指導要領と教育課程編成の実際 新学習指導要領の理念や改訂過程について	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
6	事前学修	教科書の第 6 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	中学校学習指導要領と教育課程編成の実際 新学習指導要領の内容の把握	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
7	事前学修	教科書の第 7 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	高等学校学習指導要領と教育課程編成の実際 新学習指導要領の総則を読む、第 1 講～第 7 講のまとめ	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
8	事前学修	教科書の第 8 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	特別支援教育の学習指導要領と教育課程編成の実際	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
9	事前学修	教科書の第 9 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	学校経営・学級経営・生徒指導と教育課程の関連 カリキュラム・マネジメントの要点	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
10	事前学修	教科書の第 10 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	各教科と道徳・特別活動・総合的な学習の時間の関連	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
11	事前学修	教科書の第 11 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	教育課程と評価	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
12	事前学修	教科書の第 12 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	学力向上策とカリキュラム開発	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
13	事前学修	教科書の第 13 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	新学習指導要領と教育課程の編成	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
14	事前学修	教科書の第 14 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	国際学力調査の 21 世紀型「能力」の模索と教育課程改革	

	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
	事前学修	学校現場で実際に行われた教育課程改善の事例について、配布された教育課程表の改善前と改善後の相違について読み込む	2.0
15	授業	様々な教育課程改善の事例、第8講～第15講のまとめ	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
<b>成績評価の方法およびその基準</b>			
<p>次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。</p> <p>□定期試験 □小テスト ( %) ■レポート (30%) ■演習課題 (30%) ■履修状況 (グループワーク取り組み、発表などの授業参加状況) (40%) ■ その他 [出席状況は70%以上すること]</p>			
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>			
<p>期限までに提出し、採点や添削などのKR情報を入れて返却する。</p> <p>課題のダウンロードやアップロードはPOLITEを利用する。</p>			
<b>教科書</b>	書名：改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論, 著者名：古川治・矢野裕俊編著, 出版社：北大路書房, 備考：		
<b>参考書・Web サイト</b>	文部科学省 (2018) 「高等学校学習指導要領」 (平成30年3月告示) 田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵 (2018) 「新しい時代の教育課程 [第4版] 」有斐閣		
<b>単位修得が望ましい科目</b>	「教職概論」「教育原理」「教育制度論」		
<b>備考</b>	教育職員免許法に基づく中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」における「教育課程の意義及び編成の方法」に対応する。		
<b>担当教員の実務経験</b>	北海道立高校で34年間、教諭・教頭・校長の経験があり、高校現場の実態を踏まえた指導方法や技術を通して、教師を目指す学生たちの教職の基盤づくりに資するような授業実践に努めている。		

# 道徳教育の理論と実践 Theory and Practice of Moral Education

担当教員	杉浦 勉(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	CTP285	
開講学科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科		必修		2 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
先端経営学科		必修		2 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
情報メディア学科		必修		2 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
<b>授業概要</b>						
<p>道徳教育とは、「人格の完成及び国民の育成の基盤となる」道徳性を育てることである。</p> <p>そこで、中学校における道徳教育の現状と課題を検討し、生徒の人間の発達・成長課題、「生き方」などを踏まえつつ、道徳教育の具体的指導の方法について、主に学習指導要領を読み解きながら基礎的知見を養う。また、道徳教育に関する教育学説、近代学校制度における歴史的特質なども検討する。それらを総合的に捉えたうえで具体的授業のプラン（指導案）を作成し、模擬授業を实践、状況によっては全員で指導案を検討する。そのためにも題材・資料・ねらいの深化が重要となり、その選択と授業参加者相互による批判・検討が特に重要となる。</p>						
<b>授業における学修の到達目標</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校教育における道徳教育の位置・役割を構造的に把握することができる。</li> <li>2. 「道徳とは」「道徳性とは」「道徳教育とは」を、主に学習指導要領を読み解きながら具体的に語り、関連づけることができる。</li> <li>3. 道徳教育の目標を学習指導要領の変遷から読み取り、説明することができる。</li> <li>4. 学年・学級における生徒の実態を分析し、道徳の「授業」で生徒の何を伸ばすのか考察することができる。</li> <li>5. 道徳の「授業」を自分でデザインし、展開することができる。</li> </ol>						
<b>授業計画</b>						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する。				2.0
	授業	オリエンテーション及び道徳教育の意義、道徳教育の現状と課題（子供を取り巻く現状等）				
	事後学修	授業内容と課題レポートをまとめる。				2.0
2	事前学修	ルールやマナー、宗教や哲学、倫理学と道徳について把握する。				2.0
	授業	道徳とは				
	事後学修	授業内容をまとめる。				2.0
3	事前学修	修身科や教育勅語と道徳教育について把握する。				2.0
	授業	道徳教育の歴史(1)				
	事後学修	授業内容をまとめる。				2.0
4	事前学修	道徳教育における学習指導要領変遷について把握する。				2.0
	授業	道徳教育の歴史(2)				
	事後学修	授業内容をまとめる。				2.0
5	事前学修	教科書等で道徳教育と道徳科の目標について把握する。				2.0
	授業	道徳教育の実際 1（道徳教育と道徳科の目標）				
	事後学修	授業内容をまとめる。				2.0
6	事前学修	教科書等で道徳科の内容について把握する。				2.0

	授業	道徳教育の実際 2 (道徳科の内容)	
	事後学修	授業内容をまとめる。	2.0
7	事前学修	教科書等で指導計画の作成及び道徳科の特質とその指導の在り方について把握する。	2.0
	授業	道徳教育の実際 3 (指導計画の作成及び道徳科の特質とその指導の在り方)	
	事後学修	授業内容をまとめる。	2.0
8	事前学修	教科書等で道徳科の指導と評価について把握する。	2.0
	授業	道徳教育の実際 4 (道徳科の指導と評価)	
	事後学修	授業内容をまとめる。	2.0
9	事前学修	指導案の作成方法について把握する	2.0
	授業	指導案の作成 (構想, 書き方, 留意事項など) と資料探し	
	事後学修	授業内容をまとめる。	2.0
10	事前学修	資料を基に授業構想を行う。	2.0
	授業	個人または数人のグループで指導案を作成する。	
	事後学修	指導案を完成する。	2.0
11	事前学修	指導案 1 について把握する。	2.0
	授業	完成した指導案を基に模擬授業 1	
	事後学修	模擬授業を省察する。	2.0
12	事前学修	指導案 2 について把握する。	2.0
	授業	完成した指導案を基に模擬授業 2	
	事後学修	模擬授業を省察する。	2.0
13	事前学修	指導案 3 について把握する。	2.0
	授業	完成した指導案を基に模擬授業 3	
	事後学修	模擬授業を省察する。	2.0
14	事前学修	指導案 4 について把握する。	2.0
	授業	完成した指導案を基に模擬授業 4	
	事後学修	模擬授業を省察する。	2.0
15	事前学修	14 回までの授業内容を確認し, 最終課題レポートについて構想する。	2.0
	授業	道徳教育のまとめと展望 (道徳の本質と子供の心の成長及び教育活動全体を通じた指導の在り方等)	
	事後学修	授業内容と最終課題レポートをまとめる。	2.0

### 成績評価の方法およびその基準

グループワークについては, グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い, その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■試験: 30% ■演習課題: 30% ■その他[リフレクション・発表: 40%]

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

個人の課題レポートについては, 授業内でコメントする。また, 試験結果の講評については, 学内の掲示板にて公表する。

<b>教科書</b>	書名: 中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 特別の教科 道徳編, 著者名: 文部科学省, 出版社: 教育出版株式会社, 備考:
<b>参考書・Web サイト</b>	使用しない
<b>単位修得が望ましい科目</b>	なし
<b>備考</b>	日頃から書籍や新聞報道等を通して身近な教育問題に関心を持つとともに, 事前・事後学修を

	適切に行い常に課題意識をもち授業に臨む。また、授業後適宜出す課題レポートは次週に必ず提出すること。
<b>担当教員の実務経験</b>	小学校教諭の業務経験を基に、道徳教育の理論と実践的な指導に関して、実務に即した指導を行う。

# 教育方法論と総合的な学習の時間の指導法 Instructional Methodology and Teaching Methods of Period for

担当教員	椿 達 (118 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	CTP291	
開講学科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科		必修		2 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
先端経営学科		必修		2 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
情報メディア学科		必修		2 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
<b>授業概要</b>						
<p>テーマ：教育方法学をしっかり学び、総合的な学習の時間の理念や変遷を学び、具体的な指導法を考える。</p> <p>これまでの教育方法・技術と授業に関する基本的な概念を整理し、教育方法と教授学の歴史、近代および現代の教授理論、授業における指導技術と評価、授業研究、情報機器及び教材の活用など教育メディアの活用などについての有意義な考え方と方法・スキルなどを学ぶ。その上で総合的な学習（探究）の時間の意義や創設から現在までの経緯と先進的な実践例、指導計画の作成や模擬授業の演習等を通して指導上の留意点や効果的な指導法について学び、教師としての教育（授業）実践の基盤づくりに資するものとする。講義においてプレゼンテーション（5 分間スピーチ）やグループワークによる討議を実施する。</p>						
<b>授業における学修の到達目標</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育方法学、特に授業のとらえ方と授業技法について学び、説明することができる</li> <li>2. 「授業研究」についての知見や研究成果から、授業づくりの基本や授業計画や学習指導案の作成方法を習得して、実際に学習指導案を作成することができる。</li> <li>3. 総合的な学習（探究）の時間の意義や教育課程において果たす役割を資質・能力の育成の視点から理解し、具体的な指導について自分の考えを述べることができる。</li> <li>4. 総合的な学習（探究）の時間の指導計画の作成の考え方や方法、評価の考え方について学び、模擬授業やその検討を通して探究的な学習の時間の指導の留意点を理解するとともに、効果的な指導法について考察している。</li> </ol>						
<b>授業計画</b>						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	教科書の序章を読み、疑問点などをまとめる。				2.0
	授業	ガイダンス 教育の技術（1）板書				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2.0
2	事前学修	教科書の第1章第1節と第2節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。				2.0
	授業	教育方法学を学ぶ 教育の技術（2）発問				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2.0
3	事前学修	教科書の第1章第3節と第4節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。				2.0
	授業	考える心理、学ぶ心理 教育の技術（3）個別指導・机間指導				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2.0

4	事前学修	教科書の第2章第1節と第2節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	学習と授業（「わかる」と「できる」の意味）	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
5	事前学修	教科書の第2章第3節と第4節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	授業のとらえ方と授業技法 教育の技術（4）授業における教師の役割	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
6	事前学修	教科書の第3章第1節と第2節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	様々な授業様式 教育の技術（5）教科用図書の使い方	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
7	事前学修	教科書の第3章第3節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	学力観の変遷と学習力のとらえ方	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
8	事前学修	教科書の第4章第1節と第2節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	授業づくりの基本と学習指導案 教育の技術（6-1）学習指導案を作成する：形式を学ぶ	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
9	事前学修	教科書の第4章第3節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	教育の現代化と教授理論（完全習得学習と「学び方」学習） 教育の技術（6-2）学習指導案を作成する：わかる・できる授業を目指して	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
10	事前学修	教科書の第5章第1節と第2節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	メディアの活用と情報教育	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
11	事前学修	教科書の第5章第3節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	総合的な学習の時間の意義	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
12	事前学修	教科書の第5章第2節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	戦後の学習指導要領にみる総合的な学習	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
13	事前学修	教科書の第5章第3節と第4節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	総合的な学習の時間の教育課程と校内体制	

	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
14	事前学修	教科書の第6章第1節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	総合的な学習の時間の指導計画・単元計画	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
15	事前学修	教科書の第6章第2節と第3節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	総合的な学習の時間の学習指導と評価	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0

### 成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□定期試験 ■小テスト (10%) ■レポート (25%) ■演習課題 (35%) ■履修状況 (授業参加など) (30%)

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題は、採点や添削などのKR情報を入れて返却する。

授業資料・課題のダウンロードやアップロードはPOLITEを利用する。

<b>教科書</b>	書名：アクティベート教育学⑫ 教育の方法と技術, 著者名：汐見稔幸ほか, 出版社：ミネルヴァ書房, 備考：
<b>参考書・Web サイト</b>	木村優・岸野麻衣編「授業研究」新曜社 古藤泰弘「教育方法学の実践研究」教育出版 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年3月告示）」 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）」 文部科学省「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」 文部科学省「今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開」
<b>単位修得が望ましい科目</b>	「教職概論」「教育原理」
<b>備考</b>	免許法に基づく中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「教科及び教職に関する科目」における「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」に対応する。
<b>担当教員の実務経験</b>	1986年から2015年まで29年間、北海道立高校での教員経験がある。高校現場の実態を踏まえるとともに教育学研究の知見を通して、教員を目指す学生の教職の基盤づくりに資する教育を実施する。

# ICT 活用の理論と実践 Theory and Practice in ICT Application

担当教員	椿 達(118 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		1 単位	講義	○	CTP396	
開講学科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科		必修		3 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
先端経営学科		必修		3 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
情報メディア学科		必修		3 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
<b>授業概要</b>						
<p>教育現場における ICT（情報通信技術）について、歴史的経緯、現状、今後の方向性を理解するとともに、ICT を有効に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに生徒に情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。また情報社会を生きていくための情報活用能力について、その構成要素および具体的な指導法、教育課程上の位置づけや ICT 活用の光と影について学ぶとともに、ICT を活用した効果的な教育実践についての事例研究を行い、授業における ICT 活用の方法、授業の準備、学習評価に関する活用、校務における活用や教育データの活用について考察する。授業形態としては、個別の発表、グループワーク、全体協議などである。</p>						
<b>授業における学修の到達目標</b>						
<p>(1) ICT（情報通信技術）の活用の意義と理論を理解している</p> <p>(2) ICT（情報通信技術）を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解している。</p> <p>(3) 生徒に情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための基礎的な指導法を身に付けている。</p>						
<b>授業計画</b>						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	教科書の第 1 章～第 3 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。				2
	授業	オリエンテーション 現代社会における ICT の役割と歴史的展開				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2
2	事前学修	教科書の第 4 章・第 8 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。				2
	授業	教師の ICT 活用指導力と先端技術の活用の教育実践（特に STEAM に焦点を当てて）				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2
3	事前学修	教科書の第 6 章・第 11 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。				2
	授業	個別最適な学びと特別支援教育における ICT 活用の実践				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2
4	事前学修	教科書の第 10 章・第 12 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。				2
	授業	「深い学び」を実現するための ICT の活用方法と遠隔授業の教育実践				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2
5	事前学修	教科書の第 16 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。				2
	授業	教科の資質・能力と情報活用能力を育成する基礎的な指導法				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2

		る。	
6	事前学修	教科書の第 17 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2
	授業	ICT 活用の教育実践（特にプログラミング教育に焦点を当てて）	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2
7	事前学修	教科書の第 18 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2
	授業	情報モラル・情報セキュリティを育む教育実践	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2
8	事前学修	教科書の第 14 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2
	授業	校務の情報化とデータの活用方法	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2

### 成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

定期試験 小テスト（10%） レポート（25%） 演習課題（35%） 履修状況（授業参加など）（30%）

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

期限までに提出し、採点や添削などのKR情報を入れて返却する。

課題のダウンロードやアップロードはPOLITEを利用する場合もある。

<b>教科書</b>	
<b>参考書・Web サイト</b>	前期科目「教育方法論と総合的な学習の時間の指導法」の教科書（教育の方法と技術 Ver.2 ID と ICT でつくる主体的・対話的で深い学び）を教科書として使用する。
<b>単位修得が望ましい科目</b>	教育方法論と総合的な学習の時間の指導法、進路指導、教育課程論、教科教育法
<b>備考</b>	免許法に基づく中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「教科及び教職に関する科目」における「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」に対応する。
<b>担当教員の実務経験</b>	1986年から2015年まで29年間、北海道立高校での教員経験がある。高校現場の実態を踏まえるとともに教育学研究の知見を通して、教員を目指す学生の教職の基盤づくりに資する教育を実施する。

## 特別活動論 Study of Special Activities

担当教員	渡邊 仁(115 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	CTP286	
開講学科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科		必修		2 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
先端経営学科		必修		2 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
情報メディア学科		必修		2 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
<b>授業概要</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動の意義と目標</li> <li>・特別活動の内容</li> <li>・特別活動の指導法</li> </ul> <p>自分が受けた教育が全ての教育ではない。また、自分が経験した特別活動が全ての特別活動ではない。そのため、多角的に特別活動を捉え、特別活動の意義・目標・内容に対する理解を深めることで、生徒にとって有意義な特別活動の指導に必要な知識や素養を身に付ける。</p> <p>また、授業の一部において、本学が開発した LMS (POLITE) を利用して行う。</p>						
<b>授業における学修の到達目標</b>						
<p>学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。</p>						
<b>授業計画</b>						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）にある「特別活動の目標」について事前学習してください。				2.0
	授業	特別活動の概要 グループディスカッション・演習課題				
	事後学修	中学校・高等学校における「特別活動の内容」について事後学習してください。				2.0
2	事前学修	集団活動における「利点と懸念事項」について事前学習してください。				2.0
	授業	特別活動の意義及び集団活動 グループディスカッション・演習課題				
	事後学修	高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月）解説 特別活動編にある「特別活動の教育活動全体における意義」について事後学習してください。				2.0
3	事前学修	高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）にある「ホームルーム活動の目標」について事前学習してください。				2.0
	授業	ホームルーム活動の概要 グループディスカッション・演習課題				
	事後学修	ホームルーム活動の指導において「留意すべきこと」について事後学習してください。				2.0
4	事前学修	合意形成を図る話し合い活動における「指導のポイント」について事前学習してください。				2.0
	授業	ホームルーム活動の指導計画 グループディスカッション・演習課題				
	事後学修	集団づくりにおいて、指導する際に「留意すべきこと」について事後学習してください。				2.0

5	事前学修	4 回目で作成したホームルーム活動の指導計画を発表するための事前学習をしてください。	2.0
	授業	研究協議（ホームルーム活動） グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	研究協議で発表した内容について、改善事項をどのように実践するのかを事後学習してください。	2.0
6	事前学修	高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）にある「生徒会活動の目標」について事前学習してください。	2.0
	授業	生徒会活動の概要 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）にある「生徒会活動の内容」について事後学習してください。	2.0
7	事前学修	高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）解説 特別活動編にある「生徒会活動における指導上の留意事項」について事前学習してください。	2.0
	授業	生徒会活動の指導計画 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	授業で扱った北星余市高等学校の「生徒会活動」について事後学習してください。	2.0
8	事前学修	7 回目で作成した生徒会活動の指導計画を発表するための事前学習をしてください。	2.0
	授業	研究協議（生徒会活動） グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	研究協議で発表した内容について、改善事項をどのように実践するのかを事後学習してください。	2.0
9	事前学修	高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）にある「学校行事の目標」について事前学習してください。	2.0
	授業	学校行事の概要 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）解説 特別活動編にある「学校行事を通して育成する資質・能力」について事後学習してください。	2.0
10	事前学修	高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）にある「健康安全・体育的行事のねらいと内容」について事前学習してください。	2.0
	授業	健康安全・体育的行事の指導計画 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）解説 特別活動編にある「健康安全・体育的行事の具体的な例」について事後学習してください。	2.0
11	事前学修	10 回目で作成した健康安全・体育的行事の指導計画を発表するための事前学習をしてください。	2.0
	授業	研究協議（健康安全・体育的行事） グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	研究協議で発表した内容について、改善事項をどのように実践するのかを事後学習してください。	2.0
12	事前学修	高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）にある「遠足（旅行）・集団宿泊的行事のねらいと内容」について事前学習してください。	2.0
	授業	遠足（旅行）・集団宿泊的行事の指導計画 1 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）解説 特別活動編にある「遠足（旅行）・集団宿泊的行事の実施上の留意点」について事後学習してください。	2.0
13	事前学修	高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）にある「遠足（旅行）・集団宿泊的行事のねらいと内容」について事前学習してください。	2.0



# 生徒指導 Student Guidance

担当教員	五浦 哲也(332 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	CTP288	
開講学科	種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO	
システム情報学科	必修		1・2年	前期		
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
先端経営学科	必修		1・2年	前期		
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
情報メディア学科	必修		1・2年	前期		
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
<b>授業概要</b>						
生徒指導の意義を理解し、いじめ、不登校、暴力行為、喫煙、薬物乱用、万引き、学級崩壊、インターネット等の生徒指導諸問題に対し自己指導能力の育成を目指し指導計画に基づき組織的に校内外連携の理解や体罰防止、生徒懲戒等の法的理解に関する知識・技能を身に付ける。講義内容に関わるグループワークやディスカッションを通して学んだ内容を深めていく。						
<b>授業における学修の到達目標</b>						
1. 生徒指導の意義と全教育活動における計画策定、実施や校内外連携について理解できる。 2. 生徒指導諸問題の対応について主体的に考え、判断・表現することでグループで解決策を見出すための技能を身に付けることができる。						
<b>授業計画</b>						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスやテキストの通読による概要把握				2
	授業	テキスト第1章 生徒指導の基本についてパワーポイントに基づき対話形式による講義 プレゼンテーション（生徒指導に係る授業）についての説明、実演				
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り プレゼンテーション準備				2
2	事前学修	第2章の通読による概要把握 プレゼンテーション準備				2
	授業	第2章 教師の姿についてパワーポイントに基づき対話形式による講義				
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り プレゼンテーション準備				2
3	事前学修	第3章の通読による概要把握 プレゼンテーション準備				2
	授業	第3章 児童生徒理解についてパワーポイントに基づき対話形式による講義				
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料振り返り プレゼンテーション準備				2
4	事前学修	第4章の通読による概要把握 プレゼンテーション準備				2
	授業	第4章 生徒指導体制についてパワーポイントに基づき対話形式による講義 学生によるプレゼンテーションとディスカッション				

	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り	2
5	事前学修	第4章の通読による概要把握	2
	授業	第5章 教育相談についてパワーポイントに基づき対話形式による講義 学生によるプレゼンテーションとディスカッション	
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り	2
6	事前学修	第5章の通読による概要把握	2
	授業	第6章 子どもに自立を促す生徒指導の手法についてパワーポイントに基づき対話形式による講義 学生によるプレゼンテーションとディスカッション	
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り	2
7	事前学修	第6章の通読による概要把握	2
	授業	第6章 子どもに自立を促す生徒指導の手法についてパワーポイントに基づき対話形式による講義 学生によるプレゼンテーションとディスカッション	
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り	2
8	事前学修	第7章の通読による概要把握	2
	授業	第7章 生徒懲戒と体罰、出席停止についてパワーポイントに基づき対話形式による講義 学生によるプレゼンテーションとディスカッション	
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り	2
9	事前学修	第8章の通読による概要把握	2
	授業	第8章 少年非行についてパワーポイントに基づき対話形式による講義 学生によるプレゼンテーションとディスカッション	
	事後学修	ディスカッションノート整理 テキスト・配布資料の振り返り	2
10	事前学修	第9章の通読による概要把握	2
	授業	第9章 いじめについてパワーポイントに基づき対話形式による講義 学生によるプレゼンテーションとディスカッション	
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り	2
11	事前学修	第10章の通読による概要把握	2
	授業	第10章 不登校についてパワーポイントに基づき対話形式による講義 学生によるプレゼンテーションとディスカッション	
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り	2
12	事前学修	第11章の通読による概要把握	2
	授業	第11章 学級経営と授業についてパワーポイントに基づき対話形式による講義 学生によるプレゼンテーションとディスカッション	
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り	2
13	事前学修	第12章の通読による概要把握	2

	授業	第12章 多様な子どもたちについてパワーポイントに基づき対話形式による講義 学生によるプレゼンテーションとディスカッション	
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り	2
14	事前学修	第13章の通読による概要把握	2
	授業	第13章 キャリア教育についてパワーポイントに基づき対話形式による講義 学生によるプレゼンテーションとディスカッション	
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り	2
15	事前学修	第14章の通読による概要把握	2
	授業	第14章 危機管理についてパワーポイントに基づき対話形式による講義 学生によるプレゼンテーションとディスカッション	
	事後学修	全講義内容ノート整理・確認 テキスト・配布資料の全内容の振り返り	2

### 成績評価の方法およびその基準

標準評価基準に基づき総合評価する。

■ 定期試験 ( 50 %) ■ 小テスト ( 30 %) ■ レポート ( 20 %) ※講義後の課題

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回の課題を確認し、評点とコメントを記載します。

<b>教科書</b>	書名：五訂版 入門生徒指導『生徒指導提要（改訂版）』を踏まえて、著者名：片山紀子，出版社：学事出版，備考：
<b>参考書・Web サイト</b>	中学校学習指導要領（最新版）、高等学校学習指導要領（最新版） 生徒指導提要
<b>単位修得が望ましい科目</b>	なし
<b>備考</b>	なし
<b>担当教員の実務経験</b>	1985年から京都市、北海道で31年間、公立小中学校教員の勤務経験がある。教員時代には、法令に即し常に児童生徒理解に基づき、生徒指導の諸理論を駆使することで効果的な実践に向け取り組んできた。これまでの経験を生かし、生徒指導に関連する法令や児童生徒理解や指導方法などの知識を習得し、理解を深めるとともに、教育現場での活用について考えさせていく教育を実施する。

# 学校教育相談 School Counseling

担当教員	五浦 哲也(332 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	CTP290	
開講学科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科		必修		1・2 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
先端経営学科		必修		1・2 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
情報メディア学科		必修		1・2 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
<b>授業概要</b>						
<p>テーマ：学校教育相談の基礎理論と体験演習</p> <p>現在、不登校、いじめ、非行等、学校は多くの教育問題を抱えている。その渦中にいる児童生徒はもちろん教師や保護者も戸惑い悩んでいる。児童生徒が学校生活で成長する過程で遭遇する諸問題には生徒指導はもちろんだが、教育相談・カウンセリングの果たす役割は非常に重要である。本科目では教職を目指す皆さんが児童生徒の話のいつでも聴ける知識や技術の基礎知識を学び、演習やグループワークを通して体得する。</p>						
<b>授業における学修の到達目標</b>						
講義や演習、グループワークを通して学校という視点から、教育相談・カウンセリングについて理解でき、教員として必要とされる学校教育相談の基礎理論や技法について基礎的な知識を身につけることができる。						
<b>授業計画</b>						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業全体の内容を把握する。				2.0
	授業	講義についてのガイダンス 構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第 1 章 学校教育における教育相談の意義と課題について理解する。				
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。				2.0
2	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。				2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第 2 章 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論について理解する。ピアヘルパーハンドブック第 1 章カウンセリング概論について理解する。				
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。				2.0
3	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。				2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第 3 章 学校におけるカウンセリングについて理解する。ピアヘルパーハンドブック第 1 章カウンセリング概論について理解する。				
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。				2.0
4	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。				2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第 4 章 カウンセリングの基本技法について理解する。ピアヘルパーハンドブック第 1 章カウンセリング概論について理解する。				
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。				2.0
5	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。				2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第 5 章 教育相談におけるアセスメントについて理解する。ピアヘルパーハンドブック第 2 章カウンセリングスキルについて理解する。確認テスト				

	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
6	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。	2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第6章 幼児期の発達課題と教育相談について理解する。ピアヘルパーハンドブック第2章カウンセリングスキルについて理解する。	
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
7	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。	2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第7章 児童期の発達課題と教育相談について理解する。ピアヘルパーハンドブック第2章カウンセリングスキルについて理解する。	
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
8	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。	2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第8章 思春期・青年期の発達課題と教育相談について理解する。ピアヘルパーハンドブック第2章カウンセリングスキルについて理解する。	
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
9	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。	2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第9章 いじめ問題への対応について理解する。ピアヘルパーハンドブック第3章青年期の課題とピアヘルパーの留意点について理解する。	
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
10	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。	2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第10章 不登校（園）と教育相談について理解する。ピアヘルパーハンドブック第3章青年期の課題とピアヘルパーの留意点について理解する。確認テスト	
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
11	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。	2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第11章 保護者支援と教育相談について理解する。ピアヘルパーハンドブック第3章青年期の課題とピアヘルパーの留意点について理解する。	
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
12	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。	2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第12章 学級担任が行う教育相談について理解する。ピアヘルパーハンドブック第1章～第3章についての理解を深める。	
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
13	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。	2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第13章 学校全体で進める教育相談について理解する。ピアヘルパーハンドブック第1章～第3章についての理解を深める。	
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
14	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。	2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第14章 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの役割について理解する。ピアヘルパーハンドブック第1章～第3章についての理解を深める。	
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
15	事前学修	今期の学習成果を教科書で確認し、整理して理解しておく。	2.0

授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第 15 章 専門機関との連携・協働について理解する。確認テスト	
事後学修	今期、学んだ内容を整理し、教職課程での学びにつながるようにする。	2.0
<b>成績評価の方法およびその基準</b>		
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験（50％） <input checked="" type="checkbox"/> 確認テスト（20％） <input checked="" type="checkbox"/> レポート（20％） 講義後の課題 <input type="checkbox"/> 演習課題（0％） <input checked="" type="checkbox"/> その他（演習への参加や態度）（10％）		
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</b>		
講義終了時に提示した課題に対し、評点とコメントを記載する。		
<b>教科書</b>	書名：教育相談の理論と方法（改訂版），著者名：会沢信彦，出版社：北樹出版，備考：定価：1900 円+税	
	書名：ピアヘルパーハンドブック，著者名：日本教育カウンセラー協会，出版社：図書文化，備考：定価：1500 円+税	
<b>参考書・Web サイト</b>	日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーワークブック』図書文化社	
<b>単位修得が望ましい科目</b>	生徒指導、特別支援教育	
<b>備考</b>	教科書の利用については、語彙の理解や重要な視点を中心に理解し、内容を把握してほしい。知識の蓄積にとどまらず実践的な技能習得に向けて自ら考え、判断、表現できるように努めて欲しい。	
<b>担当教員の実務経験</b>	五浦 哲也 1985 年から京都市、北海道で公立小中学校教員の 31 年間勤務経験がある。教員経験において、児童生徒の成長を促すために、個別の教育相談や予防開発的な教育相談を実践してきた。この経験を生かし、学生が教育相談に関する知識を技能を習得し、教育現場にどのように活かしていくことができるかを考える教育を実施する。	

## 進路指導 Career Guidance

担当教員	椿 達(118 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		1 単位	講義	○	CTP395	
開講学科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科		必修		3 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
先端経営学科		必修		3 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
情報メディア学科		必修		3 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
<b>授業概要</b>						
<p>テーマ：進路指導とキャリア教育の理念と意義を学び、その教育実践について考察する。</p> <p>本授業では進路指導・キャリア教育について、歴史的政策的な経緯を踏まえ、基本的な事項を解説し、学校教育のなかで進路指導・キャリア教育がどのような役割を担い、どのような意義を持つ教育活動であるのか、さらにこれからどのような教育実践が求められていくのかについて学ぶ。授業の方法は、講義・討議（グループワークや全体）・演習・発表など、履修者の参加や活動を重視した方法で行う。</p>						
<b>授業における学修の到達目標</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 進路指導・キャリア教育の意義や原理、政策的な経緯と現状について理解し、説明することができる。</li> <li>2. 進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解し、説明することができる。</li> <li>3. 進路指導・キャリア教育の実践的課題は何であるか等の見通しをもち、将来の実践者としての教育への意欲を高めるとともに、指導の基盤をつくり、教育実践について自分の考えを述べるすることができる。</li> </ol>						
<b>授業計画</b>						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	教科書の「プロローグ」を読み、教科書の著書の執筆の意図などをまとめる。				2
	授業	キャリア教育の意義				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2
2	事前学修	教科書の第 1 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。				2
	授業	キャリア教育の理論				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2
3	事前学修	教科書の第 2 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。				2
	授業	進路指導とキャリア教育				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2
4	事前学修	教科書の第 3 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。				2
	授業	キャリア教育の推進と評価				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2
5	事前学修	教科書の第 4 章（第 16～20 話）を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。				2
	授業	キャリア教育の方法と技術				

	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2
6	事前学修	教科書の第4章（第21～25話）を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2
	授業	キャリア教育の組織と推進	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2
7	事前学修	参考書を読み、課題（予習）プリントに取り組む。	2
	授業	キャリア・カウンセリングの理論と方法	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2
8	事前学修	参考書を読み、課題（予習）プリントに取り組む。	2
	授業	高等学校におけるキャリア教育・総括テスト	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2

### 成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□定期試験 ■小テスト（10%） ■レポート（25%） ■演習課題（35%） ■履修状況（授業参加など）（30%）

### 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期限までに提出し、採点や添削などのKR情報を入れて返却する。

課題のダウンロードやアップロードはPOLITEを利用する場合もある。

<b>教科書</b>	書名：キャリア教育フォー ビギナーズ 「お花畑系キャリア教育」は言われるほど多いか？、 著者名：藤田晃之、出版社：実業之日本社、備考：
<b>参考書・Web サイト</b>	・文部科学省（2023）『中学校・高等学校 キャリア教育の手引き』実業之日本社。 （文部科学省ホームページからもダウンロードできます。 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/mext_00010.html">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/mext_00010.html</a> ）
<b>単位修得が望ましい科目</b>	なし
<b>備考</b>	免許法に基づく中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」における「進路指導の理論及び方法」に対応する。
<b>担当教員の実務経験</b>	1986年から2015年まで29年間、北海道立高校での教員経験がある。高校現場の実態を踏まえるとともに教育学研究の知見を通して、教員を目指す学生の教職の基盤づくりに資する教育を実施する。

# 教育実習 I Practice Teaching 1

担当教員	五浦 哲也(332 研究室), 椿 達(118 研究室), 渡邊 仁(115 研究室)		単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
			1 単位	実習	○	CTP391
開講学科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科		必修		4 年	前期・後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
先端経営学科		必修		4 年	前期・後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
情報メディア学科		必修		4 年	前期・後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
<b>授業概要</b>						
<p>「教育実習」は、教師を志望する学生が、講義などを通して習得した理論や技能を学校教育の実際場面へ適用し、実践的な体験をする学習活動である。大学の講義では得られない教育を行う諸能力を身に付けるために、実践を通して集中的に取り組む学習になる。</p> <p>高等学校の教員免許の取得希望者は2週間以上、中学校の教員免許の取得希望者は3週間以上、教育実習を行なうことになる。「教育実習 I」では、そのための事前指導（事前学習）と事後指導（事後学習）を行う。</p> <p>教育実習のねらいは以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教師という専門職とは何かについて、体験する。</li> <li>2. 大学で学んだ知識・技能を実践上で生かす。</li> <li>3. 大学では得られない実践的な教育技術を身に付ける。</li> <li>4. 生徒とのふれあいを通して、教育の本質を実感する。</li> <li>5. 教職に関する学習の総まとめとして、研究活動をする。</li> </ol> <p>「教育実習 I」事前指導（事前学習）では、所期のねらいを達成するように準備、訓練を行うための学習となる。「教育実習 I」事後指導（事後学習）では、「教育実習 II/教育実習 III」の終了後に、そこでの学習のまとめ及び教育についての見つけなおしを行い、その報告を行う。</p>						
<b>授業における学修の到達目標</b>						
<p>事前指導：教育実習並びに学校教育活動に関する基礎的・基本的事項について理解を深め、教育実習に向けての心構え、課題意識を養う。模擬授業や授業の振り返り協議などの実習を行う。</p> <p>事後指導：教育実習を振り返り、教育実践を通して学んだ教育活動についてその工夫・改善、向上のあり方に気付かせ、さらに、教育実践に対する自覚と意欲を強化する。</p>						
<b>授業計画</b>						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	4年生の実習報告会に参加し、質疑をして、教育実習の理解を深める。				2.0
	授業	1 教育実習の意義 2 教員に求められる資質 3 教育実習に臨むにあたっての心構え・マナー				
	事後学修	教育実習の概要をまとめ、理解を深める。				2.0
2	事前学修	4年生の実習報告会に参加し、質疑をして、教育実習の理解を深める。				2.0
	授業	4 教育実習の内容（1） 授業実習				
	事後学修	教育実習の内容をまとめ、理解を深める。				2.0
3	事前学修	4年生の実習報告会に参加し、質疑をして、教育実習の理解を深める。				2.0

	授業	5 教育実習の内容(2) 特別活動等の指導	
	事後学修	教育実習の内容をまとめ、理解を深める。	2.0
4	事前学修	4年生の実習報告会に参加し、質疑をして、教育実習の理解を深める。	2.0
	授業	6 教育実習生の一日	
	事後学修	教育実習の1日の概要を理解し、理解を深める。	2.0
5	事前学修	4年生の実習報告会に参加し、質疑をして、教育実習の理解を深める。	2.0
	授業	7 事前準備 8 教育実習を終えるにあたってグループワーク	
	事後学修	教育実習の準備を整理し、今後に備える。	2.0
6	事前学修	4年生の実習報告会に参加し、質疑をして、教育実習の理解を深める。	2.0
	授業	模擬授業(1) 模擬授業を体験し、本時の授業の運営を試みる。その後、生徒役の学生と相互に協議する。プレゼンテーション、グループワーク	
	事後学修	授業者、参加者双方とも、本時の体験を振り返り、本番の実習に備える。	2.0
7	事前学修	4年生の実習報告会に参加し、質疑をして、教育実習の理解を深める。	2.0
	授業	模擬授業(2) 模擬授業を体験し、本時の授業の運営を試みる。その後、生徒役の学生と相互に協議する。プレゼンテーション、グループワーク	
	事後学修	授業者、参加者双方とも、本時の体験を振り返り、本番の実習に備える。	2.0
8	事前学修	4年生の実習報告会に参加し、質疑をして、教育実習の理解を深める。	2.0
	授業	模擬授業(3) 模擬授業を体験し、本時の授業の運営を試みる。その後、生徒役の学生と相互に協議する。プレゼンテーション、グループワーク	
	事後学修	授業者、参加者双方とも、本時の体験を振り返り、本番の実習に備える。	2.0
9	事前学修	4年生の実習報告会に参加し、質疑をして、教育実習の理解を深める。	2.0
	授業	模擬授業(4) 模擬授業を体験し、本時の授業の運営を試みる。その後、生徒役の学生と相互に協議する。プレゼンテーション、グループワーク	
	事後学修	授業者、参加者双方とも、本時の体験を振り返り、本番の実習に備える。	2.0
10	事前学修	4年生の実習報告会に参加し、質疑をして、教育実習の理解を深める。	2.0
	授業	模擬授業(5) 模擬授業を体験し、本時の授業の運営を試みる。その後、生徒役の学生と相互に協議する。プレゼンテーション、グループワーク	
	事後学修	授業者、参加者双方とも、本時の体験を振り返り、本番の実習に備える。	2.0
11	事前学修	教育実習の成果をまとめ、発表資料を作成する。	2.0
	授業	実習報告会(1) 教育実習の体験をまとめ、3年生や教員の前で発表し、質疑応答する。プレゼンテーション、グループワーク	
	事後学修	質疑応答や教員のコメントを参考にして、あらためて、教育実習の反省をする。	2.0
12	事前学修	教育実習の成果をまとめ、発表資料を作成する。	2.0
	授業	実習報告会(2) 教育実習の体験をまとめ、3年生や教員の前で発表し、質疑応答する。プレゼンテーション、グループワーク	
	事後学修	質疑応答や教員のコメントを参考にして、あらためて、教育実習の反省をする。	2.0
13	事前学修	教育実習の成果をまとめ、発表資料を作成する。	2.0
	授業	実習報告会(3) 教育実習の体験をまとめ、3年生や教員の前で発表し、質疑応答する。プレゼンテーション、グループワーク	
	事後学修	質疑応答や教員のコメントを参考にして、あらためて、教育実習の反省をする。	2.0
14	事前学修	教育実習の成果をまとめ、発表資料を作成する。	2.0

	授業	実習報告会(4) 教育実習の体験をまとめ、3年生や教員の前で発表し、質疑応答する。プレゼンテーション、グループワーク	
	事後学修	質疑応答や教員のコメントを参考にして、あらためて、教育実習の反省をする。	2.0
15	事前学修	教育実習の成果をまとめ、発表資料を作成する。	2.0
	授業	実習報告会(5) 教育実習の体験をまとめ、3年生や教員の前で発表し、質疑応答する。プレゼンテーション、グループワーク	
	事後学修	質疑応答や教員のコメントを参考にして、あらためて、教育実習の反省をする。	2.0

### 成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■レポート（指導案提出、協議記録の提出、教育実習報告会時のワークシート及びスライド資料）：50%

■その他：50% [模擬授業の実施、協議の進行、記録、参加や教育実習報告会での報告]

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

模擬授業における指導案や授業運営について個別指導を行う。

### 教科書

### 参考書・Web サイト

「教育実習 64 の質問」寺崎、黒澤、別府監修 学文社

### 単位修得が望ましい科目

関連科目：教育実習Ⅱ・教育実習Ⅲに連動している。

### 備考

その他：事後指導は後期に行う場合がある。

### 担当教員の実務経験

椿 達

1986年から2015年まで29年間、北海道立高校での教員経験がある。高校現場の実態を踏まえるとともに教育学研究の知見を通して、教員を目指す学生の教職の基盤づくりに資する教育を実施する。

五浦哲也

1985年から31年間、京都市及び北海道の公立小中学校で教員経験がある。教務部や研修部及び教育実習生の担当経験を活かし、教育実習を通して学生が主体的かつ深い学びができるよう実践に即した授業づくりに努めている。

渡邊 仁

定時制高校での勤務経験における、不登校・暴力行為・自傷行為・虐待事案・ネグレクト等の様々な問題への対応と、学校適応に関する研究を通して、理論的・実践的な授業になるよう努めている。

## 教育実習Ⅱ Practice Teaching 2

担当教員	渡邊 仁(115 研究室), 五浦 哲也(332 研究室), 椿 達(118 研究室)		単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
			2 単位	実習	○	CTP392
開講学科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科		必修		4 年	夏期又は冬期集中	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
先端経営学科		必修		4 年	夏期又は冬期集中	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
情報メディア学科		必修		4 年	夏期又は冬期集中	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
<b>授業概要</b>						
<p>「教育実習Ⅱ」は、平素の専門分野の学習・研究活動及び高等学校の教科「情報」「商業」「数学」の学習を基に、実際に実習校において実践的な教育活動を体験します。「教育実習Ⅰ」と密接に関連した学習である。</p> <p>教育実習のねらいは次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教師という専門職とは何か、体験的に体得する。</li> <li>2. 大学で得た知識・技能を実践上で生かす。</li> <li>3. 大学で得られない実践的な教育技術を身につける。</li> <li>4. 生徒とのふれあいを通して、教育の本質を実感する。</li> <li>5. 教職に関する学習の総まとめとして、研究活動をする。</li> </ol> <p>実習期間は、高校の教員免許の取得希望者の場合は2週間以上、中学校の教員免許の取得希望者の場合は3週間以上だが、事前の学校訪問等があり、当該実習校との連携をとりながら準備をし、実習を行う。また、事前の学校訪問の状況について、大学に報告しなければならない。</p>						
<b>授業における学修の到達目標</b>						
現実の学校環境における生徒たちとの直接的な接触を通して教育活動の体験を積み、将来教員となるための実践上の能力態度を養う。						
<b>授業計画</b>						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する。				2.0
	授業	教育実習校での実習に関するオリエンテーションを受ける。				
	事後学修	オリエンテーションの内容をまとめ自覚する。				2.0
2	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。				2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。				
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。				2.0
3	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。				2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。				
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。				2.0
4	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。				2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。				

	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
5	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
6	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
7	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
8	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
9	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
10	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
11	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
12	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
13	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
14	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
15	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容をレポートにまとめる。	2.0

### 成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % ■「教育実習Ⅰ」の内容を踏まえた実習後のレポート：30% □演習課題： %  
 ■その他 70% [教育実習日誌・実習校からの出席簿や評価表を参考に総合的に評価します]

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

模擬授業における「ねらい」「発問」「板書」「ワークシート」「評価」の在り方について、学生の考えを聞きながら質の向上に向け、個別に指導する。また、学習指導案についても個別に指導する。

<b>教科書</b>	
<b>参考書・Web サイト</b>	岩本俊郎ほか編（2017）『新 教育実習を考える[改訂版]』北樹出版
<b>単位修得が望ましい科目</b>	教育実習Ⅰ
<b>備考</b>	特になし
<b>担当教員の実務経験</b>	<p>椿 達 1986年から2015年まで29年間、北海道立高校での教員経験がある。高校現場の実態を踏まえるとともに教育学研究の知見を通して、教員を目指す学生の教職の基盤づくりに資する教育を実施する。</p> <p>五浦哲也 1985年から31年間、京都市及び北海道の公立小中学校で教員経験がある。教務部や研修部及び教育実習生の担当経験を活かし、教育実習を通して学生が主体的かつ深い学びができるよう実践に即した授業づくりに努めている。</p> <p>渡邊 仁 定時制高校での勤務経験における、不登校・暴力行為・自傷行為・虐待事案・ネグレクト等の様々な問題への対応と、学校適応に関する研究を通して、理論的・実践的な授業になるよう努めている。</p>

## 教育実習Ⅲ Practice Teaching 3

担当教員	渡邊 仁(115 研究室), 五浦 哲也(332 研究室), 椿 達(118 研究室)		単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
			2 単位	実習	○	CTP393
開講学科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科		選択		4 年	夏期又は冬期集中	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
先端経営学科		選択		4 年	夏期又は冬期集中	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
情報メディア学科		選択		4 年	夏期又は冬期集中	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
<b>授業概要</b>						
<p>「教育実習Ⅲ」は、平素の専門分野の学習・研究活動及び中学校の教科「数学」の学習を基に、実際に実習校において実践的な教育活動を体験する。「教育実習Ⅰ」と密接に関連した学習である。</p> <p>教育実習のねらいは次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教師という専門職とは何か、体験的に体得する。</li> <li>2. 大学で得た知識・技能を実践上で生かす。</li> <li>3. 大学で得られない実践的な教育技術を身につける。</li> <li>4. 生徒とのふれあいを通して、教育の本質を実感する。</li> <li>5. 教職に関する学習の総まとめとして、研究活動をする。</li> </ol> <p>実習期間は、中学校の教員免許の取得希望者の場合は3週間以上だが、事前の学校訪問等があり、当該実習校との連携をとりながら準備をし、実習を行う。また、事前の学校訪問の状況について、大学に報告しなければならない。</p>						
<b>授業における学修の到達目標</b>						
現実の学校環境における生徒たちとの直接的な接触を通して教育活動の体験を積み、将来教員となるための実践上の能力態度を養う。						
<b>授業計画</b>						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する。				2.0
	授業	教育実習校での実習に関するオリエンテーションを受ける。				
	事後学修	オリエンテーションの内容をまとめ自覚する。				2.0
2	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。				2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。				
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。				2.0
3	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。				2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。				
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。				2.0
4	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。				2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。				
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。				2.0

5	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
6	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
7	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
8	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
9	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
10	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
11	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
12	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
13	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
14	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
15	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容をレポートにまとめる。	2.0

### 成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % ■レポート：30% □演習課題 ■その他：70% [教育実習日誌・実習校からの出席簿や評価表を参考に総合的に評価します]

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

模擬授業における「ねらい」「発問」「板書」「ワークシート」「評価」の在り方について、学生の考えを聞きながら質の向上に向け、個別に指導します。また、学習指導案についても個別に指導する。

### 教科書

<b>参考書・Web サイト</b>	富村誠ほか編（2020）『すぐに役立つ 教育実習のエッセンス』（学術図書出版社）
<b>単位修得が望ましい科目</b>	教育実習Ⅰ
<b>備考</b>	特になし。
<b>担当教員の実務経験</b>	<p>椿 達 1986年から2015年まで29年間、北海道立高校での教員経験がある。高校現場の実態を踏まえるとともに教育学研究の知見を通して、教員を目指す学生の教職の基盤づくりに資する教育を実施する。</p> <p>五浦哲也 1985年から31年間、京都市及び北海道の公立小中学校で教員経験がある。教務部や研修部及び教育実習生の担当経験を活かし、教育実習を通して学生が主体的かつ深い学びができるよう実践に即した授業づくりに努めている。</p> <p>渡邊 仁 定時制高校での勤務経験における、不登校・暴力行為・自傷行為・虐待事案・ネグレクト等の様々な問題への対応と、学校適応に関する研究を通して、理論的・実践的な授業になるよう努めている。</p>

# 教職実践演習（中・高）

Practical Seminar for the Teaching Profession

担当教員	椿 達(118 研究室), 五浦 哲也(332 研究 室), 渡邊 仁(115 研 究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	実習	○	CTP394	
開講学科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科		必修		4 年	後期	
対応するディプロマポリシー						
先端経営学科		必修		4 年	後期	
対応するディプロマポリシー						
情報メディア学科		必修		4 年	後期	
対応するディプロマポリシー						
<b>授業概要</b>						
<p>本科目は、教職課程のいわば集大成とでもいうべき科目である。講義と模擬授業（授業研究を含む）、外部講師による教育現場の実態を知る講演会を通して、授業と学習指導の実践的指導力（ICT の活用を含む）、教員の職務や責任、生徒理解・生徒指導とホームルーム（学級）経営などについての知識を整理し、今日の教育（社会）問題について考察し、討論し、大学における教師養成の最終段階としての力量の形成と各自のこれからの課題を明らかにしていく。</p>						
<b>授業における学修の到達目標</b>						
<p>教職課程の総まとめとして今までの学びを振り返り、教員として必要とされる資質・能力を身に付けることができる。また、社会人としての基礎的・汎用的な能力を身に付けることができる。</p>						
<b>授業計画</b>						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する。				2.0
	授業	ガイダンス・授業研究（検討会）の進め方とファシリテーターの役割について				
	事後学修	本時の学習内容を確認し、次回からスムーズに参加できるようにする。				2.0
2	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。				2.0
	授業	教育課程と学習指導要領に関する講義とグループワーク				
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。				2.0
3	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。				2.0
	授業	教育の方法と技術（授業）に関する講義とグループワーク				
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。				2.0
4	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。				2.0
	授業	生徒理解と特別支援教育に関する講義とグループワーク				
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。				2.0
5	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。				2.0
	授業	教員の職務と責任に関する講義とグループワーク				
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。				2.0
6	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。				2.0
	授業	生徒理解と教育相談に関する講義とグループワーク				
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。				2.0
7	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。				2.0

	授業	予防・開発的な生徒指導に関する講義とグループワーク	
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
8	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。	2.0
	授業	教員としての資質向上に関する講義とグループワーク	
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
9	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。	2.0
	授業	模擬授業の実施と授業研究1（テーマ：授業の方略と方策）問題基盤学習	
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
10	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。	2.0
	授業	模擬授業の実施と授業研究2（テーマ：授業の目標と評価）問題基盤学習	
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
11	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。	2.0
	授業	模擬授業の実施と授業研究3（テーマ：アクティブ・ラーニング）問題基盤学習	
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
12	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。	2.0
	授業	模擬授業の実施と授業研究4（テーマ：板書・発問・個別指導）問題基盤学習	
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
13	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。	2.0
	授業	模擬授業の実施と授業研究5（テーマ：ICT活用の理論と実践）問題基盤学習	
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
14	事前学修	今までの内容を総括し、講演を意欲的に聴けるようにする。	2.0
	授業	外部講師による講演（教育現場の実情と教師に求められる資質・能力）協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
15	事前学修	ポートフォリオを整理し、授業に備える。	2.0
	授業	講義のまとめ・ポートフォリオの完成と提出 デイスカッション グループワーク	
	事後学修	学んだ内容を整理し、まとめる。	2.0

### 成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□レポート

■その他 100%[協議の進行、記録や参加の状況、模擬授業の実施状況（ICT活用を含む）、教職実践演習ポートフォリオ]

### 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬授業では、改善ポイントを簡潔にフィードバックする。

講義における討論では、学生相互の考えを認めつつ、さらに深めるための発問により思考・判断力の柔軟性を培う。

### 教科書

参考書・Web サイト 講義ごとに紹介する。

単位修得が望ましい科目 教育実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ

備考 特になし

担当教員の実務経験 椿 達  
1986年から2015年まで29年間、北海道立高校での教員経験がある。高校現場の実態を踏まえるとともに教育学研究の知見を通して、教員を目指す学生の教職の基盤づくりに資する教育を実

	<p>施する。</p> <p>五浦哲也 1985年から31年間、京都市及び北海道の公立小中学校で教員経験がある。教務部や研修部及び教育実習生の担当経験を活かし、教育実習を通して学生が主体的かつ深い学びができるよう実践に即した授業づくりに努めている。</p> <p>渡邊 仁 定時制高校での勤務経験における、不登校・暴力行為・自傷行為・虐待事案・ネグレクト等の様々な問題への対応と、学校適応に関する研究を通して、理論的・実践的な授業になるよう努めている。</p>
--	--

# 情報科教育法Ⅰ Teaching Methods of School Subjects (Information Science) 1

担当教員	山北 隆典(139 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CTP276
開講学科	種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科	必修		2 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>					
先端経営学科	必修		2 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>					
情報メディア学科	必修		2 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>					
<b>授業概要</b>					
<p>高等学校の共通教科情報科及び専門教科情報科の授業を担当するために最低限必要な事項、すなわち、教科の目標、科目の編成、学習内容、それらの取扱い等について、学習指導要領解説情報編をもとに確認します。特に、共通教科情報科は必修教科であるため、教科目標、科目編成、学習内容については情報教育の体系的・系統的なカリキュラムの中に位置付けて確認していきます。</p> <p>また、学習指導計画の作成を行う上で拠り所となる事項（観点別学習状況の評価、実習中心の授業展開）について、ICT活用と関連付けて確認していきます。これらの知識は情報科教育法Ⅱの履修につながるものです。</p>					
<b>授業における学修の到達目標</b>					
<p>高等学校の共通教科情報科及び専門教科情報科について、わが国における情報教育の体系的・系統的なカリキュラムの中に位置付けて、教科の目標、科目の編成、学習内容等を説明できるようになることを目指します。さらに、学習内容を指導するうえでの留意点を説明できるようになることを目指します。</p> <p>また、学習指導案を作成する上で拠り所となる事項（観点別学習状況の評価、実習中心の授業展開）について、ICT活用と関連付けて説明できるようになることを目指します。</p>					
<b>授業計画</b>					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスに目を通して、科目の内容を把握しましょう。			1
	授業	ガイダンス			
	事後学修	授業で提示された課題について確認しておきましょう。			1
2	事前学修	教科書（まえがき、1 ページから 8 ページ）に目を通しておきましょう。			1
	授業	学習指導要領改訂と情報科			
	事後学修	講義ノートの内容をまとめ、確認しておきましょう。			2
3	事前学修	教科書（9 ページから 15 ページ）に目を通しておきましょう。			1
	授業	我が国の情報教育の変遷と情報教育の目標			
	事後学修	講義ノートの内容をまとめ、確認しておきましょう。			2
4	事前学修	教科書（15 ページから 22 ページ、41 ページ）に目を通しておきましょう。			1
	授業	共通教科情報科 教科目標と科目構成、科目目標、位置付け			
	事後学修	講義ノートの内容をまとめ、確認しておきましょう。			2
5	事前学修	教科書（22 ページから 30 ページ）に目を通しておきましょう。			2
	授業	「情報Ⅰ」内容の取扱い(1)(2)			
	事後学修	講義ノートの内容をまとめ、確認しておきましょう。			2
6	事前学修	教科書（31 ページから 40 ページ）に目を通しておきましょう。			2
	授業	「情報Ⅰ」内容の取扱い(3)(4)			

	事後学修	講義ノートの内容をまとめ、確認しておきましょう。	2
7	事前学修	教科書（41 ページから 48 ページ）に目を通りておきましょう。	2
	授業	「情報 II」内容の取扱い(1)(2)	
	事後学修	講義ノートの内容をまとめ、確認しておきましょう。	2
8	事前学修	教科書（48 ページから 59 ページ）に目を通しておきましょう。	2
	授業	「情報 II」内容の取扱い(3)(4)(5)	
	事後学修	講義ノートの内容をまとめ、確認しておきましょう。	2
9	事前学修	教科書（60 ページから 68 ページ）に目を通しておきましょう。	2
	授業	共通教科情報科の各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い	
	事後学修	講義ノートの内容をまとめ、確認しておきましょう。	2
10	事前学修	教科書（71 ページから 173 ページ）に目を通しておきましょう。	3
	授業	専門教科情報科目標と内容構成	
	事後学修	講義ノートの内容をまとめ、確認しておきましょう。	2
11	事前学修	教科書（174 ページから 188 ページ）に目を通しておきましょう。	2
	授業	専門教科情報科の各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い	
	事後学修	講義ノートの内容をまとめ、確認しておきましょう。	2
12	事前学修	教育の情報化に関する手引き-追補版-（令和 2 年 6 月）をダウンロードし内容を確認しましょう。	3
	授業	教育の情報化（情報教育の環境と情報セキュリティ）	
	事後学修	講義ノートの内容をまとめ、確認しておきましょう。	2
13	事前学修	児童生徒の学習評価の在り方について（報告）をダウンロードし内容を確認しましょう。	2
	授業	学習指導のデザイン	
	事後学修	講義ノートの内容をまとめ、確認しておきましょう。	2
14	事前学修	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料高等学校「情報」（令和 3 年 8 月）をダウンロードし内容（第 1 編、第 2 編）を確認しましょう。	3
	授業	学習評価のデザイン	
	事後学修	講義ノートの内容をまとめ、確認しておきましょう。	2
15	事前学修	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料高等学校「情報」（第 3 編）に目を通しておきましょう。	3
	授業	授業デザインの例	
	事後学修	講義ノートの内容をまとめ、確認しておきましょう。試験に向けて講義ノートを整理しましょう。	3

### 成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■ 定期試験（ 60%） ■ 小テスト（ 40%） □ レポート（ %）

□ 演習課題（ %） □ その他 [ % ]

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テストは授業内に解答・解説を行います。

定期試験に関しては、回収後にポイントを LMS で解説します。

<b>教科書</b>	書名：高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 情報編, 著者名：文部科学省, 出版社：, 備考：以下の URL（文部科学省 HP）からダウンロードしてください。 <a href="https://www.mext.go.jp/content/1407073_11_1_2.pdf">https://www.mext.go.jp/content/1407073_11_1_2.pdf</a>
<b>参考書・Web サイト</b>	鹿野利春, 高橋参吉, 西野和典 (著, 編集)：情報科教育法 実教出版（2022） その他 Web サイトについては、適宜、授業内で紹介します。

<b>単位修得が望ましい科目</b>	情報系，メディア系基礎科目
<b>備考</b>	共通教科，専門教科を問わず，情報科においては，本学における専門教科の内容と強く関連する項目が多くあります。受講者はすでにそれらの内容については概ね理解できているものとして，本講では詳細に扱いません。理解できていない，もしくはこれまでに学習していない場合には，その内容を独学しながら受講する覚悟が求められます。
<b>担当教員の実務経験</b>	実務経験なし

## 情報科教育法Ⅱ Teaching Methods of School Subjects(Information Science) 2

担当教員	山北 隆典(139 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	CTP277	
開講学科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科		必修		2 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
先端経営学科		必修		2 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
情報メディア学科		必修		2 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
<b>授業概要</b>						
<p>情報科教育法Ⅰで学んだ内容をもとに、共通教科「情報」の授業を対象とし、ICT を活用した実習中心の指導を行うための指導案の作成方法と授業の進め方を体験的に学習します。</p> <p>教材研究、教材作り、学習指導案の作成・検討にグループワークで取り組み、学習指導案作りのポイントを確認します。さらに、学習指導案に基づいた模擬授業を体験し、授業改善の視点について議論します。</p>						
<b>授業における学修の到達目標</b>						
<p>ICT を活用した実習中心の実践的な授業に関する指導計画を立案するための基本的な考え方、配慮すべき事項を説明できるようになることを目指します。</p> <p>教科目標の達成に向けた授業を展開するために指導方法、評価方法を工夫し、実践していくために求められるスキルや態度を説明できるようになることを目指します。</p> <p>指導案作成、模擬授業を振り返り、授業を改善するためのポイントを説明できるようになることを目指します。</p>						
<b>授業計画</b>						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	教科書の第 1 章に目を通しておきましょう。不明点は各自調査しておきましょう。				1
	授業	ガイダンス及び、本時の指導案検討（第 1 章）				
	事後学修	「本時の指導案」の作成方法を振り返りましょう。				1
2	事前学修	教科書の第 2 章、第 3 章に目を通しておきましょう。不明点は各自調査しておきましょう。				2
	授業	本時の指導案検討（第 2 章、第 3 章）				
	事後学修	指定された範囲の「本時の指導案」を作成しましょう。				2
3	事前学修	教科書の第 4 章、第 5 章、第 6 章に目を通しておきましょう。不明点は各自調査しておきましょう。				2
	授業	本時の指導案検討（第 4 章、第 5 章、第 6 章）				
	事後学修	これまでの「本時の指導案」のサンプルで作成方法を確認し、教科書の担当範囲を読み直しましょう。				2
4	事前学修	「本時の指導案」を作成すること。				3
	授業	グループ指導案作成				
	事後学修	グループの「本時の指導案（叩き台）」を完成させましょう。				3
5	事前学修	「本時の指導案（叩き台）」を確認し、模擬授業の準備をしましょう。				2
	授業	グループ内模擬授業と指導案の改善				
	事後学修	グループの「本時の指導案（資料等も含む）」を完成させましょう。				2
6	事前学修	「本時の指導案（資料等も含む）」を確認し、模擬授業の準備をしましょう。				2
	授業	模擬授業 A と検討会				

	事後学修	指導案及び模擬授業に対する建設的なコメントを記入しましょう。	2
7	事前学修	「本時の指導案（資料等も含む）」を確認し、模擬授業の準備をしましょう。	1
	授業	模擬授業 B と検討会	
	事後学修	指導案及び模擬授業に対する建設的なコメントを記入しましょう。	2
8	事前学修	「本時の指導案（資料等も含む）」を確認し、模擬授業の準備をしましょう。	2
	授業	模擬授業 C と検討会	
	事後学修	指導案及び模擬授業に対する建設的なコメントを記入しましょう。	2
9	事前学修	模擬授業でのコメントを確認しよう。	1
	授業	模擬授業のまとめ	
	事後学修	「本時の指導案」の作成方法を再確認し、教科書の担当範囲を読み直しましょう。	2
10	事前学修	「本時の指導案」を作成すること。	3
	授業	グループ指導案作成	
	事後学修	グループの「本時の指導案（叩き台）」を完成させましょう。	3
11	事前学修	「本時の指導案（叩き台）」を確認し、模擬授業の準備をしましょう。	2
	授業	グループ内模擬授業と指導案の改善	
	事後学修	グループの「本時の指導案（資料等も含む）」を完成させましょう。	2
12	事前学修	「本時の指導案（資料等も含む）」を確認し、模擬授業の準備をしましょう。	2
	授業	模擬授業 A と検討会	
	事後学修	指導案及び模擬授業に対する建設的なコメントを記入しましょう。	2
13	事前学修	「本時の指導案（資料等も含む）」を確認し、模擬授業の準備をしましょう。	2
	授業	模擬授業 B と検討会	
	事後学修	指導案及び模擬授業に対する建設的なコメントを記入しましょう。	2
14	事前学修	「本時の指導案（資料等も含む）」を確認し、模擬授業の準備をしましょう。	2
	授業	模擬授業 C と検討会	
	事後学修	指導案及び模擬授業に対する建設的なコメントを記入しましょう。	2
15	事前学修	模擬授業でのコメントを確認し、「本時の指導案」作成のポイントを整理しましょう。	2
	授業	模擬授業のまとめ、総合演習	
	事後学修	総合演習の結果に対するフィードバックを確認しましょう。	1

### 成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

定期試験（ %）  小テスト（ %）  レポート（ 55%）

演習課題（ %）  その他 [模擬授業：30% 総合演習：15%]

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポート（学習指導案）、演習課題（ワークシート）については、提出後に講評を行います。教材研究・指導案作成・模擬授業などの演習については、終了後に授業内で問題提起や助言を行います。総合演習については、終了後に LMS で講評を行います。

### 教科書

書名：情 | 007-902 最新情報 | 新訂版, 著者名：編修・執筆：萩谷昌己, 西野和典, 出版社：実教出版, 備考：

### 参考書・Web サイト

文部科学省：高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 情報編 開隆堂出版 (2010)  
 ( [https://www.mext.go.jp/content/1407073\\_11\\_1\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1407073_11_1_2.pdf) からダウンロード可能)  
 鹿野利春, 高橋参吉, 西野和典 (著, 編集)：情報科教育法 実教出版 (2022)

	その他 Web サイトについては、適宜、授業内で紹介します。
<b>単位修得が望ましい科目</b>	原則、「情報科教育法Ⅰ」を受講済みであることを履修の条件とします。 (わが国における情報教育の体系的・系統的なカリキュラムの中に位置付けて、教科「情報」の目標、科目の編成、指導内容等を説明できること、学習指導要領の内容を理解していること、学習指導計画を作成する上で拠り所となる事項について ICT 活用と関連付けて説明できることを受講の前提としているからです。)
<b>備考</b>	単なる知識伝達の授業ではありません。グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションが中心となりますので、授業への積極的な参加態度が求められます。
<b>担当教員の実務経験</b>	実務経験なし

# 商業科教育法 I Teaching Methods of School Subjects (Business Science) 1

担当教員	田中 修一(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	CTP283	
開講学科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科		必修		2 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
先端経営学科		必修		2 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
情報メディア学科		必修		2 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
<b>授業概要</b>						
<p>テーマ：商業科教員としての実践的指導力の基礎づくりを目指す。</p> <p>商業科教員としての実践力修得に向けた教科指導と生徒指導の研究を進める。特に教科「商業」の基礎的な科目，総合科目，四分野の科目構成，目指す能力や内容，指導する際の留意点及び学習評価について学習する。また，基礎的な科目，総合科目，四分野の科目から内容の一部を短時間授業として，具体的な事例を取り入れた指導を実践する。</p> <p>講義演習では，アクティブ・ラーニング（主に PBL，ディスカッション，プレゼンテーション等）手法を取り入れる。</p>						
<b>授業における学修の到達目標</b>						
商業科教員とし実践的な教科指導力を向上を図る。内容では，商業に関する教育内容を体系的に分類し，それぞれの学習分野についての基礎的・基本的な知識と技術を習得する。						
<b>授業計画</b>						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスの内容の確認と学習指導要領改訂の内容を把握する				2.0
	授業	ガイダンス，学習指導要領改訂とは何かをテーマにグループ内発表等で理解を深める				
	事後学修	学習指導要領改訂の内容をグループ内発表結果をまとめ理解を深める				2.0
2	事前学修	科目「ビジネス基礎」を精読し目標，ねらい，内容等を把握する				2.0
	授業	基礎科目（ビジネス基礎）の内容等の概観と指導上の留意点				
	事後学修	科目「ビジネス基礎」の指導上の留意事項等をまとめ理解を深める				2.0
3	事前学修	科目「ビジネス基礎」の短時間授業に向けた教材研究をする				2.0
	授業	基礎科目（ビジネス基礎）の具体的な事例を踏まえた指導の実践（グループワーク・ディスカッション）				
	事後学修	授業を終えての自己評価，批評等をまとめる				2.0
4	事前学修	マーケティング分野を精読し目標，ねらい，内容等を把握				2.0
	授業	マーケティング分野の内容等の概観と指導上の留意点				
	事後学修	マーケティング分野の指導上の留意事項等をまとめ理解を深める				2.0
5	事前学修	マーケティング分野の短時間授業に向けた教材研究をする				2.0
	授業	マーケティング分野の具体的な事例を踏まえた指導の実践（グループワーク・ディスカッション）				
	事後学修	授業を終えての自己評価，批評等をまとめる				2.0
6	事前学修	マネジメント分野を精読し目標，ねらい，内容等を把握する				2.0
	授業	マネジメント分野の内容等の概観と指導上の留意点				
	事後学修	マネジメント分野の指導上の留意事項等をまとめ理解を深める				2.0

7	事前学修	マネジメント分野の短時間授業に向けた教材研究をする	2.0
	授業	マネジメント分野の具体的事例を踏まえた指導の実践 (グループワーク・ディスカッション)	
	事後学修	授業を終えての自己評価, 批評等をまとめる	2.0
8	事前学修	会計分野を精読し目標, ねらい, 内容等を把握する	2.0
	授業	会計分野の内容等の概観と指導上の留意点	
	事後学修	会計分野の指導上の留意事項等をまとめ理解を深める	2.0
9	事前学修	会計分野の短時間授業に向けた教材研究をする	2.0
	授業	会計分野の具体的事例を踏まえた指導の実践 (グループワーク・ディスカッション)	
	事後学修	授業を終えての自己評価, 批評等をまとめる	2.0
10	事前学修	ビジネス情報分野を精読し目標, ねらい, 内容等を把握する	2.0
	授業	ビジネス情報分野の内容等の概観と指導上の留意点	
	事後学修	ビジネス情報分野の指導上の留意事項等をまとめ理解を深める	2.0
11	事前学修	ビジネス情報分野の短時間授業に向けた教材研究をする	2.0
	授業	ビジネス情報分野の具体的事例を踏まえた指導の実践 (グループワーク・ディスカッション)	
	事後学修	授業を終えての自己評価, 批評等をまとめる	2.0
12	事前学修	総合科目(課題研究)を精読し目標, ねらい, 内容等を把握する	2.0
	授業	総合科目(課題研究)の内容等の概観と指導上の留意点	
	事後学修	総合科目(課題研究)の指導上の留意事項等をまとめ理解を深める	2.0
13	事前学修	総合科目(ビジネス・コミュニケーション)を精読し目標, ねらい, 内容等を把握する	2.0
	授業	総合科目(ビジネス・コミュニケーション)の内容等の概観と指導上の留意点(グループワーク・ディスカッション)	
	事後学修	総合科目(ビジネス・コミュニケーション)の指導上の留意事項等をまとめ理解を深める	2.0
14	事前学修	学習評価についての資料を収集する	2.0
	授業	学習評価と「指導と評価」の一体化について (グループワーク・ディスカッション)	
	事後学修	学習評価についての資料の整理とまとめをする	2.0
15	事前学修	学習指導についての資料を収集する	2.0
	授業	職業, 進路, キャリア教育の視点を踏まえた学習指導の在り方, レポート審査, 講評等	
	事後学修	学習指導の資料整理とまとめをする	2.0

### 成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■ 定期試験 (20%) ■ レポート (20%) ■ 演習課題 (30%) ■ その他 [ 模擬授業 30% ]

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

個人発表講評、教材開発指導助言、PBL等のまとめ講評、課題レポートに講評を記入して返却する。

<b>教科書</b>	書名：商業科教育論 21世紀の商業教育を創造する, 著者名：日本商業教育学会, 出版社：実教出版株式会社, 備考：履修者は全員購入すること。商業科教育法Ⅱでも引き続き使用する
<b>参考書・Web サイト</b>	○履修時に購入した上記の冊子及び高等学校学習指導要領解説商業編を本講義で使用する。 ・高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 商業編

	<p>※購入または文部科学省 Web からダウンロード可</p> <p>○書名・版： 高等学校学習指導要領（平成 30 年度告示）解説 商業編(2019/3/10 発行) ○著者名： 文部科学省</p> <p>○発行所： 実教出版</p> <p>○ I S B N : 978-4-407-34863-7</p> <p>○関係資料や課題は、単元毎に適宜配布する</p>
<b>単位修得が望ましい科目</b>	特になし
<b>備考</b>	特になし
<b>担当教員の実務経験</b>	<p>公立高校定時制勤務からスタートし、8 間口以上の大規模併置校 2 校，行政職，8 間口商業単置校 1 校を歴任する中で，商業科教員として教材開発や授業評価等の研究を実際の授業で活かすとともに，担任として延べ 27 年に渡り，生徒指導や進路指導を実践的に取り組んできた。</p> <p>また，教育実習生を受け入れる際には率先して指導教官を引き受け，授業評価並びに授業改善のアドバイスをを行い，現職教員となった卒業生徒も多数輩出してきた。</p> <p>本講義では高校の教育現場での指導経験を活かし，年間を見通した授業計画，教材研究の重要性，授業評価の必要性等を履修学生と共に研究を進め，指導技術と教科指導力のスキルアップを支援する教育を実施する。</p>

## 商業科教育法Ⅱ Teaching Methods of School Subjects(Business Science) 2

担当教員	田中 修一(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CTP284
開講学科	種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科	必修		2 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>					
先端経営学科	必修		2 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>					
情報メディア学科	必修		2 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>					
<b>授業概要</b>					
<p>テーマ：商業科教員としての実践的指導力の基礎づくりを目指す。</p> <p>商業教育は「ビジネス」の学習を通して、学習者の望ましい人間形成を目指し、産業社会の発展に有為な人材の育成を目的としている。このような趣旨を踏まえて、商業科目の内容等とその指導法及び指導技術について教育現場の課題や問題点を意識しながら、学習指導案、教材研究、模擬授業、相互評価により理解を深める。</p> <p>講義演習では、アクティブ・ラーニング（主にPBL、ディスカッション、プレゼンテーション等）手法を取り入れる。</p>					
<b>授業における学修の到達目標</b>					
商業科教員として、指導内容や指導方法等の知識を深めるとともに、指導技術の修得及び教員としての資質の向上を図り、時代に即した望ましい授業の実践と教材研究に取り組むことができる。					
<b>授業計画</b>					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	学習指導の方法、形態等の資料を収集する			2.0
	授業	学校、生徒の実態等を踏まえて学習指導の意義と在り方			
	事後学修	学習指導についての資料の整理とまとめをする			2.0
2	事前学修	学習指導案の書式や書き方などの資料を収集する			2.0
	授業	学習指導案（授業計画案）の作成の実際			
	事後学修	学習指導案作成の留意点等をまとめる			2.0
3	事前学修	各分野で活用できる情報機器等及び教材の事例等を収集する			2.0
	授業	情報機器及び教材の効果的な活用法の研究			
	事後学修	次回以降のために活用できる情報機器等及び教材の具体的事例をまとめる			2.0
4	事前学修	マーケティング分野の科目「マーケティング」の学習指導案を作成する(P46~P54)			2.0
	授業	科目「マーケティング」の学習指導案の検討、修正、改善等を図る			
	事後学修	学習指導案を完成させる			2.0
5	事前学修	科目「マーケティング」の教材に必要な資料を収集する			2.0
	授業	科目「マーケティング」の学習内容を踏まえた教材等の研究			
	事後学修	学習指導案の内容と教材等の整合性の確認をする			2.0
6	事前学修	科目「マーケティング」の模擬授業に向けたシミュレーションをする			2.0
	授業	科目「マーケティング」の模擬授業の実践 (ディスカッション・グループワーク)			
	事後学修	自己評価、相互評価、講評等をまとめる			2.0
7	事前学修	マネジメント分野の科目「ビジネス・マネジメント」の学習指導案を作成する(P68~P75)			2.0

	授業	科目「ビジネス・マネジメント」の学習指導案の検討, 修正, 改善等を図る	
	事後学修	科目「ビジネス・マネジメント」の学習指導案を完成させる	2.0
8	事前学修	科目「ビジネス・マネジメント」の教材に必要な資料を収集する	2.0
	授業	科目「ビジネス・マネジメント」の学習内容を踏まえた教材等の研究	
	事後学修	学習指導案の内容と教材等の整合性の確認をする	2.0
9	事前学修	科目「ビジネス・マネジメント」の模擬授業に向けたシミュレーションをする	2.0
	授業	科目「ビジネス・マネジメント」の模擬授業の実践 (ディスカッション・グループワーク)	
	事後学修	自己評価, 相互評価, 講評等をまとめる	2.0
10	事前学修	会計分野の科目「簿記」の学習指導案を作成する(89~P95)	2.0
	授業	科目「簿記」の学習指導案の検討, 修正, 改善等を図る	
	事後学修	科目「簿記」の学習指導案を完成させる	2.0
11	事前学修	科目「簿記」の教材に必要な資料を収集する	2.0
	授業	科目「簿記」の学習内容を踏まえた教材等の研究	
	事後学修	学習指導案の内容と教材等の整合性の確認をする	2.0
12	事前学修	科目「簿記」の模擬授業に向けたシミュレーションをする	2.0
	授業	科目「簿記」の模擬授業の実践 (ディスカッション・グループワーク)	
	事後学修	自己評価, 相互評価, 講評等をまとめる	2.0
13	事前学修	ビジネス情報分野の科目「情報処理」の学習指導案を作成する(P124~P131)	2.0
	授業	科目「情報処理」の学習指導案の検討, 修正, 改善等を図る	
	事後学修	学習指導案を完成させる	2.0
14	事前学修	科目「情報処理」の教材に必要な資料を収集する	2.0
	授業	科目「情報処理」の学習内容を踏まえた教材等の研究	
	事後学修	学習指導案の内容と教材等の整合性の確認をする	2.0
15	事前学修	科目「情報処理」の模擬授業に向けたシミュレーションをする	2.0
	授業	科目「情報処理」の模擬授業の実践, レポート審査, 講評等 (ディスカッション・グループワーク)	
	事後学修	自己評価, 相互評価, 講評等をまとめる	2.0

### 成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■試験：20% ■レポート：10% ■演習課題：30%

■その他[模擬授業（指導案，教材研究を含む）40%]

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題レポートに講評を記入して返却する

**教科書**  
書名：商業科教育論 21世紀の商業教育を創造する, 著者名：日本商業教育学会, 出版社：実教出版株式会社, 備考：商業科教育法Ⅰで購入し, 商業科教育法Ⅱでも引き続き使用する

**参考書・Web サイト**  
○商業科教育法Ⅰで購入した冊子の本講義で引き続き使用する。  
※商業科教育法Ⅰで購入した者は再度購入しないこと。  
・高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 商業編  
※購入又は文部科学省 HP で、ダウンロード可

	<p>※商業科教育法Ⅰで使用したものを引き続き使用する</p> <p>○書名・版：高等学校学習指導要領（平成 30 年度告示）解説 商業編(2019/3/10 発行)</p> <p>○著者名：文部科学省</p> <p>○発行所：実教出版</p> <p>○I S B N：978-4-407-34863-7</p> <p>○関係資料や課題は、単元毎に適宜配布する</p>
<b>単位修得が望ましい科目</b>	特になし
<b>備考</b>	特になし
<b>担当教員の実務経験</b>	<p>公立高校定時制勤務からスタートし、8 間口以上の大規模併置校 2 校、行政職、8 間口商業単置校 1 校を歴任する中で、商業科教員として教材開発や授業評価等の研究を実際の授業で活かすとともに、担任として延べ 27 年に渡り、生徒指導や進路指導を実践的に取り組んできた。</p> <p>また、教育実習生を受け入れる際には率先して指導教官を引き受け、授業評価並びに授業改善のアドバイスをを行い、現職教員となった卒業生徒も多数輩出してきた。</p> <p>本講義では高校の教育現場での指導経験を活かし、年間を見通した授業計画、教材研究の重要性、授業評価の必要性等を履修学生と共に研究を進め、指導技術と教科指導力のスキルアップを支援する教育を実施する。</p>

# 数学科教育法 I Teaching Methods of School Subjects(Mathematics) 1

担当教員	松井 伸也(224 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CTP278
開講学科	種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科	必修		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー					
先端経営学科	選択		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー					
情報メディア学科	必修		2 年	前期	
対応するディプロマポリシー					
授業概要					
<p>テーマ：発展的な内容を理解する為の準備</p> <p>数学の対象を「教える」場合、「定義」を理解することが必要です。定義は論理的な文章で記述されています。様々な数学的事実を明確にし、迷いのない形で「自分の数学」を構成する上での基礎作りを行いたいと思います。特に集合、論理を中心に学びます。これが、将来教員となり数学を教えるときに必須の条件となります。</p>					
授業における学修の到達目標					
<p>数学の教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された数学の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深める。</p>					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	指導要領を確認する。			2
	授業	数学とは			
	事後学修	講義で与えた課題を行う。			2
2	事前学修	高校の教科書で論理について復習する。			2
	授業	論理の言葉の整理を行う。			
	事後学修	講義で与えた課題を行う。			2
3	事前学修	高校の教科書で集合について復習する。			2
	授業	集合の定義と基礎的な基礎的な記号について			
	事後学修	講義で与えた課題を行う。			2
4	事前学修	前回の講義の復習を行う。			2
	授業	集合の積, 和, 差, 直積について			
	事後学修	講義で与えた課題を行う。			2
5	事前学修	前回の講義の復習を行う。			2
	授業	同値関係について			
	事後学修	講義で与えた課題を行う。			2
6	事前学修	前回の講義の復習を行う。			2
	授業	同値類と商集合について。			
	事後学修	講義で与えた課題を行う。			2
7	事前学修	前回の講義の復習を行う。			2
	授業	同値関係の具体的な定義として「 $p$ を法とする同値関係」を取り扱う。準備として整数の商, 余りの復習など。			

	事後学修	講義で与えた課題を行う。	2
8	事前学修	前回の講義の復習を行う。	2
	授業	同値関係の具体的な定義として「 $p$ を法とする同値関係」を取り扱い剰余類について述べる。	
	事後学修	講義で与えた課題を行う。	2
9	事前学修	前回の講義の復習を行う。	2
	授業	集合から集合への写像, 関数, グラフについて。	
	事後学修	講義で与えた課題を行う。	2
10	事前学修	前回の講義の復習を行う。	2
	授業	命題について。	
	事後学修	講義で与えた課題を行う。	2
11	事前学修	前回の講義の復習を行う。	2
	授業	論理記号について, 「ならば」, 「必要十分」, 「真偽表」など。	
	事後学修	講義で与えた課題を行う。	2
12	事前学修	前回の講義の復習を行う。	2
	授業	「かつ」, 「または」, 「ならば」などを含む命題の同値性について。	
	事後学修	講義で与えた課題を行う。	2
13	事前学修	前回の講義の復習を行う。	2
	授業	「否定」を含む命題と同値性について, de Moergan の法則など。	
	事後学修	講義で与えた課題を行う。	2
14	事前学修	前回の講義の復習を行う。	2
	授業	「すべて」, 「ある」, 「否定」を含む命題と同値性について, de Moergan の法則など。	
	事後学修	講義で与えた課題を行う。	2
15	事前学修	模擬講義の準備	2
	授業	高校数学, 中学数学の中からテーマを選び, 講義内容を踏まえ論理的な「定義」, 「説明」を行う。	
	事後学修	講義で与えた課題を行う。	2

### 成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■定期試験または模擬講義 (30%) ■レポート (70%)

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜質問に答えます。

<b>教科書</b>	
<b>参考書・Web サイト</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中学校学習指導要領 (最新版)、高等学校学習指導要領 (最新版) (文部科学省)</li> <li>● 中学校学習指導要領解説 (最新版)、高等学校学習指導要領解説 (最新版) (文部科学省ホームページ)</li> <li>● 石川剛郎 著「論理・集合・数学語」共立出版</li> <li>● 宮腰忠 著「高校数学+アルファ」共立出版</li> </ul>
<b>単位修得が望ましい科目</b>	特にありません。
<b>備考</b>	特にありません。
<b>担当教員の実務経験</b>	高校教員 (数学, 3 年間, 非常勤) この経験を通じ学生への対応方法の例を挙げます。

## 数学科教育法Ⅱ Teaching Methods of School Subjects(Mathematics) 2

担当教員	椿 達(118 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	CTP279	
開講学科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科		必修		2 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
先端経営学科		選択		2 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
情報メディア学科		必修		2 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
<b>授業概要</b>						
<p>テーマ：中学校や高校での数学の授業を担当するための実践力を養う</p> <p>数学科教育法Ⅰで学んだことを基礎にして、授業方法や評価法、指導計画の作成や教育機器の活用法、学習指導案の作成などについて学び、演習（学習指導案の作成、模擬授業、グループワーク）を通して、高等学校において数学の授業を担当するために求められる実践的指導力を養成する。</p>						
<b>授業における学修の到達目標</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習指導要領に示された高等学校数学の目標や内容を理解している。</li> <li>2. 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を立てることができる。</li> <li>3. 高等学校での数学の授業実践力を模擬授業等を通して養うとともに、模擬授業後に学生相互の意見交換を通して、授業観察の目を鍛え、自分の授業を改善していく力と意識を高ようとしている。</li> </ol>						
<b>授業計画</b>						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	教科書を読み、高校数学での既習内容を確認する。				2.0
	授業	講義のガイダンス、数学の授業方法（方略と方策）について				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2.0
2	事前学修	事前に配布された資料を読み、疑問点などをまとめる。				2.0
	授業	数学科の学習指導要領の変遷と現在と次期の内容について				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2.0
3	事前学修	事前に配布された資料を読み、疑問点などをまとめる。				2.0
	授業	授業目標と評価・学習評価について				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2.0
4	事前学修	事前に配布された資料を読み、疑問点などをまとめる。				2.0
	授業	教育機器の活用について				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2.0
5	事前学修	事前に配布された資料を読み、疑問点などをまとめる。				2.0
	授業	学習指導案の作成について				
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。				2.0

		る。	
6	事前学修	模擬授業の学習指導案と板書計画を作成する。	2.0
	授業	模擬授業の実施（数学Ⅰ：2次関数）	
	事後学修	模擬授業の検討会の内容を振り返り、できていたことや課題になったことをまとめる。	2.0
7	事前学修	模擬授業の学習指導案と板書計画を作成する。	2.0
	授業	模擬授業の実施（数学Ⅰ：図形と計量）	
	事後学修	模擬授業の検討会の内容を振り返り、できていたことや課題になったことをまとめる。	2.0
8	事前学修	模擬授業の学習指導案と板書計画を作成する。	2.0
	授業	模擬授業の実施（数学Ⅰ：データ分析）	
	事後学修	模擬授業の検討会の内容を振り返り、できていたことや課題になったことをまとめる。	2.0
9	事前学修	模擬授業の学習指導案と板書計画を作成する。	2.0
	授業	模擬授業の実施（数学A：場合の数と確率）	
	事後学修	模擬授業の検討会の内容を振り返り、できていたことや課題になったことをまとめる。	2.0
10	事前学修	模擬授業の学習指導案と板書計画を作成する。	2.0
	授業	模擬授業の実施（数学A：整数）	
	事後学修	模擬授業の検討会の内容を振り返り、できていたことや課題になったことをまとめる。	2.0
11	事前学修	模擬授業の学習指導案と板書計画を作成する。	2.0
	授業	模擬授業の実施（数学Ⅱ：図形と方程式）	
	事後学修	模擬授業の検討会の内容を振り返り、できていたことや課題になったことをまとめる。	2.0
12	事前学修	模擬授業の学習指導案と板書計画を作成する。	2.0
	授業	模擬授業の実施（数学Ⅱ：微積分）	
	事後学修	模擬授業の検討会の内容を振り返り、できていたことや課題になったことをまとめる。	2.0
13	事前学修	模擬授業の学習指導案と板書計画を作成する。	2.0
	授業	模擬授業の実施（数学B：数列）	
	事後学修	模擬授業の検討会の内容を振り返り、できていたことや課題になったことをまとめる。	2.0
14	事前学修	模擬授業の学習指導案と板書計画を作成する。	2.0
	授業	模擬授業の実施（数学B：ベクトル）	
	事後学修	模擬授業の検討会の内容を振り返り、できていたことや課題になったことをまとめる。	2.0
15	事前学修	今までの模擬授業の検討会記録を読み返し、どのようなことが課題となってきたか、グループ別に整理してみる。	2.0
	授業	本講義を振り返り、議論を通して、学びを深める。	
	事後学修	数学科における授業の学習指導案の作成の基本をマスターできたかどうか、確認する。	2.0
<b>成績評価の方法およびその基準</b>			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 □定期試験 ■総括テスト（70%） ■演習・課題（20%） ■履修状況（授業参加・小テストなど）（10%）			
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</b>			
板書計画や模擬授業の指導案を課題とする。 期限までに提出し、対話を通して、修正することにより、模擬授業の質を高める。 検討会の記録は分担して、POLITEにあるフォーマットを活用して提出する。 模擬授業の実施回では、その授業範囲での確認テストを実施して、採点後にフィードバックする。			
<b>教科書</b>	書名：NEXT 数学Ⅰ（令和8年度発行）、著者名：岡部 恒治 ほか、出版社：数件出版、備考：		

	書名：NEXT 数学 A（令和 8 年度発行），著者名：岡部 恒治 ほか，出版社：数研出版，備考：
	書名：NEXT 数学 II，著者名：岡部 恒治 ほか，出版社：数研出版，備考：
	書名：NEXT 数学 B，著者名：岡部 恒治 ほか，出版社：数研出版，備考：
	書名：NEXT 数学 III，著者名：岡部恒治ほか，出版社：数研出版，備考：
	書名：NEXT 数学 C，著者名：岡部恒治ほか，出版社：数研出版，備考：
<b>参考書・Web サイト</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）、高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）</li> <li>● 中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）解説、高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）解説 （すべて文部科学省ホームページからダウンロード可）</li> </ul>
<b>単位修得が望ましい科目</b>	「教職概論」「教育原理」「教育課程論」「教育方法論と総合的な学習の時間の指導法」
<b>備考</b>	なし
<b>担当教員の実務経験</b>	1986 年から 2015 年まで 29 年間、北海道立高校での教員経験がある。高校現場の実態を踏まえるとともに教育学研究の知見を通して、教員を目指す学生の教職の基盤づくりに資する教育を実施する。

# 数学科教育法Ⅲ Teaching Methods of School Subjects(Mathematics) 3

担当教員	椿 達(118 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	CTP280	
開講学科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科		必修		3 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
先端経営学科		選択		3 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
情報メディア学科		必修		3 年	前期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
<b>授業概要</b>						
<p>数学科教育法Ⅲは、中学校数学科の目標・内容を踏まえて、教材内容や数学的活動等について学び、もって実践的な指導力の基礎を身につけることを目標とする。そのため、中学校数学に関する教材研究を通じた教材観の習得と授業実践の理解することはもちろん、小学校や高等学校との連続性を踏まえて教材を俯瞰することのできる力量を育むとともに、中学校の数学の教員に求められる基礎的、基本的な資質・能力の習得を目指す。</p>						
<b>授業における学修の到達目標</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中学校数学の目標・学習内容、数学的活動等について理解している。</li> <li>2. 中学校数学の内容に関する教材観を確立し、学習指導案や板書計画の作成、模擬授業を通して授業実践の力量を意欲的に習得しようとしている。</li> </ol>						
<b>授業計画</b>						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	学習指導要領（平成 29 年告示）解説 数学編の第 1 章と第 2 章を読む。				2.0
	授業	中学校数学科の目標及び内容、中学生の発達段階、中学校数学の方向性を理解し、グループワークによる問題解決の方途を検討する。				
	事後学修	授業の復習・宿題レポート				2.0
2	事前学修	中学数学の内容（数と式：1～2 年）の予習課題に取り組む。				2.0
	授業	中学数学の内容（数と式：1～2 年）を小中高の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにして、グループワークにより問題解決の方途を検討する。				
	事後学修	授業の復習・宿題レポート				2.0
3	事前学修	中学数学の内容（数と式：2～3 年）の予習課題に取り組む。				2.0
	授業	中学数学の内容（数と式：2～3 年）を小中高の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにして、グループワークにより問題解決の方途を検討する。				
	事後学修	授業の復習・宿題レポート				2.0
4	事前学修	中学数学の内容（図形：1～2 年）の予習課題に取り組む。				2.0
	授業	中学数学の内容（図形：1～2 年）を小中高の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにして、グループワークにより問題解決の方途を検討する。				
	事後学修	授業の復習・宿題レポート				2.0
5	事前学修	中学数学の内容（図形：2～3 年）の予習課題に取り組む。				2.0
	授業	中学数学の内容（図形：2～3 年）を小中高の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにして、グループワークにより問題解決の方途を検討する。				
	事後学修	授業の復習・宿題レポート				2.0
6	事前学修	中学数学の内容（関数：1～2 年）の予習課題に取り組む。				2.0

	授業	中学数学の内容（関数：1～2年）を小中高の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにして、グループワークにより問題解決の方途を検討する。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
7	事前学修	中学数学の内容（関数：2～3年）の予習課題に取り組む。	2.0
	授業	中学数学の内容（関数：2～3年）を小中高の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにして、グループワークにより問題解決の方途を検討する。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
8	事前学修	中学数学の内容（データの活用：1～2年）の予習課題に取り組む。	2.0
	授業	中学数学の内容（データの活用：1～2年）を小中高の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにして、グループワークにより問題解決の方途を検討する。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
9	事前学修	中学数学の内容（データの活用：2～3年）の予習課題に取り組む。	2.0
	授業	中学数学の内容（データの活用：2～3年）を小中高の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにして、グループワークにより問題解決の方途を検討する。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
10	事前学修	学習指導案（略案）と板書計画の作成	2.0
	授業	模擬授業（数と式）を実施し、授業研究（検討会）を通して、授業の方略と方策について考察する。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
11	事前学修	学習指導案（略案）と板書計画の作成	2.0
	授業	模擬授業（図形）を実施し、授業研究（検討会）を通して、授業の方略と方策について考察する。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
12	事前学修	学習指導案（略案）と板書計画の作成	2.0
	授業	模擬授業（関数）を実施し、授業研究（検討会）を通して、授業の方略と方策について考察する。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
13	事前学修	学習指導案（略案）と板書計画の作成	2.0
	授業	模擬授業（データの活用：1年）を実施し、授業研究（検討会）を通して、授業の方略と方策について考察する。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
14	事前学修	学習指導案（略案）と板書計画の作成	2.0
	授業	模擬授業（データの活用：2年）を実施し、授業研究（検討会）を通して、授業の方略と方策について考察する。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
15	事前学修	学習指導案（略案）と板書計画の作成	2.0
	授業	模擬授業（データの活用：3年）を実施し、授業研究（検討会）を通して、授業の方略と方策について考察する。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0

### 成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□定期試験 ■総括テスト（70%） ■演習・課題（20%） ■履修状況（授業参加など）（10%）

### 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

板書計画や模擬授業の指導案を課題とする。

期限までに提出し、対話を通して、修正することにより、模擬授業の質を高める。

検討会の記録は分担して、POLITEにあるフォーマットを活用して提出する。	
<b>教科書</b>	書名：これからの数学1（令和7年度用），著者名：岡部恒治ほか，出版社：数研出版，備考：教科書番号706
	書名：これからの数学2（令和7年度用），著者名：岡部恒治ほか，出版社：数研出版，備考：教科書番号806
	書名：これからの数学3（令和7年度用），著者名：岡部恒治ほか，出版社：数研出版，備考：教科書番号906
<b>参考書・Webサイト</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中学校学習指導要領（平成29年3月告示）、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）</li> <li>● 中学校学習指導要領（平成29年3月告示）解説、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）解説 （すべて文部科学省ホームページからダウンロード可）</li> </ul>
<b>単位修得が望ましい科目</b>	「数学科教育法Ⅰ」「数学科教育法Ⅱ」「教職概論」「教育原理」「教育課程論」「教育方法論と総合的な学習の時間の指導法」「進路指導」
<b>備考</b>	なし
<b>担当教員の実務経験</b>	1986年から2015年まで29年間、北海道立高校での教員経験がある。高校現場の実態を踏まえるとともに教育学研究の知見を通して、教員を目指す学生の教職の基盤づくりに資する教育を実施する。

# 数学科教育法Ⅳ Teaching Methods of School Subjects(Mathematics) 4

担当教員	椿 達(118 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	CTP281	
開講学科		種別	主要授業科目	配当年次	開講時期	CDIO
システム情報学科		必修		3 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
先端経営学科		選択		3 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
情報メディア学科		必修		3 年	後期	
<b>対応するディプロマポリシー</b>						
<b>授業概要</b>						
<p>数学科教育法Ⅳは、数学科教育法Ⅲにおいて学んだことを踏まえて、実践的な指導力の基礎をさらに身につけることを目標とする。そのため、中学校数学に関する教材研究を通じた教材観の習得と授業実践の理解することはもちろん、ICTを活用した新しい指導法などを研究・開発して、中学校の数学の教員に求められる基礎的、基本的な資質・能力（高等学校数学までの基礎学力を含む）の習得を目指す。</p>						
<b>授業における学修の到達目標</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中学校数学の目標・学習内容、数学的活動等について理解している。</li> <li>2. 中学校数学の内容に関する教材観を確立し、学習指導案や板書計画の作成、模擬授業を通して新しい授業実践の探究・開発することができる。</li> <li>3. 中学校において数学を専門教科として指導するために、高等学校数学までの基礎学力を有している。</li> </ol>						
<b>授業計画</b>						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	数学科教育法Ⅲで学んだことを復習して、これからの自分の学びの課題を明らかにする。				2.0
	授業	履修者それぞれの学びの課題を発表し合い（グループワークや全体討議）、これからの授業で学びの目標や内容を確認するとともに、授業力向上の意欲を高める。				
	事後学修	授業の復習・宿題レポート				2.0
2	事前学修	中学数学の内容(数と式：1～2年)の予習課題に取り組む。				2.0
	授業	中学数学の内容(数と式：1～2年)を初等・中等教育の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにしてグループワークによる問題解決。				
	事後学修	授業の復習・宿題レポート				2.0
3	事前学修	中学数学の内容(数と式：2～3年)の予習課題に取り組む。				2.0
	授業	中学数学の内容(数と式：1～2年)を初等・中等教育の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにしてグループワークによる問題解決。				
	事後学修	授業の復習・宿題レポート				2.0
4	事前学修	中学数学の内容(図形：1～2年)の予習課題に取り組む。				2.0
	授業	中学数学の内容(数と式：1～2年)を初等・中等教育の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにしてグループワークによる問題解決。				
	事後学修	授業の復習・宿題レポート				2.0
5	事前学修	中学数学の内容(図形：2～3年)の予習課題に取り組む。				2.0
	授業	中学数学の内容(図形：2～3年)を初等・中等教育の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにしてグループワークによる問題解決。				
	事後学修	授業の復習・宿題レポート				2.0

6	事前学修	中学数学の内容(関数：1～2年)の予習課題に取り組む。	2.0
	授業	中学数学の内容(関数：1～2年)を初等・中等教育の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにしてグループワークによる問題解決。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
7	事前学修	中学数学の内容(関数：2～3年)の予習課題に取り組む。	2.0
	授業	中学数学の内容(関数：2～3年)を初等・中等教育の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにしてグループワークによる問題解決。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
8	事前学修	中学数学の内容(データの活用：1～2年)の予習課題に取り組む。	2.0
	授業	中学数学の内容(データの活用：1～2年)を初等・中等教育の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにしてグループワークによる問題解決。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
9	事前学修	中学数学の内容(データの活用：2～3年)の予習課題に取り組む。	2.0
	授業	中学数学の内容(データの活用：2～3年)を初等・中等教育の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにしてグループワークによる問題解決。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
10	事前学修	POLITE 掲載のレジユメの予習	2.0
	授業	関数グラフソフト Geogebra (関数教材)などを用いて、ICT 活用の授業展開について グループワークによる教材開発に取り組む	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
11	事前学修	POLITE 掲載のレジユメの予習	2.0
	授業	関数グラフソフト Geogebra (幾何教材)などを用いて、ICT 活用の授業展開について グループワークによる教材開発に取り組む。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
12	事前学修	POLITE 掲載のレジユメの予習	2.0
	授業	関数グラフソフト Geogebra (代数教材)などを用いて、ICT 活用の授業展開について グループワークによる教材開発に取り組む。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
13	事前学修	POLITE 掲載のレジユメの予習	2.0
	授業	関数グラフソフト Geogebra (統計教材)などを用いて、ICT 活用の授業展開について グループワークによる教材開発に取り組む。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
14	事前学修	POLITE 掲載のレジユメの予習	2.0
	授業	これまでに開発して教材について、グループごとに発表する。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
15	事前学修	POLITE 掲載のレジユメの予習	2.0
	授業	これまでの授業内容の理解度を理解するために、授業のまとめ(総括)を行う。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0

### 成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□定期試験 ■総括テスト(70%) ■演習・課題(20%) ■履修状況(授業参加など)(10%)

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

<p>板書計画や模擬授業の指導案を課題とする。</p> <p>期限までに提出し、対話を通して、修正することにより、模擬授業の質を高める。</p> <p>検討会の記録は分担して、POLITEにあるフォーマットを活用して提出する。</p> <p>模擬授業の実施回では、その授業範囲での確認テストを実施して、採点後にフィードバックする。</p>	
<b>教科書</b>	書名：NEXT 数学Ⅲ, 著者名：岡部恒治ほか, 出版社：数研出版, 備考：
<b>参考書・Web サイト</b>	中学校学習指導要領解説（数学）
<b>単位修得が望ましい科目</b>	数学科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ
<b>備考</b>	なし
<b>担当教員の実務経験</b>	1986年から2015年まで29年間、北海道立高校での教員経験がある。高校現場の実態を踏まえるとともに教育学研究の知見を通して、教員を目指す学生の教職の基盤づくりに資する教育を実施する。